經典餘師

易經

口 11
1029
16

門 口 11
1929
16

易之為書也所以悟變革之幾也幾者成之於未形慎之於未萌雖則戒且慎乎不可如之何者物之數也數生於易故能知

數者。素貧賤而不慮。素富貴而不濫。素威武而不懾。素患難而不變。素夷狄而不憂。素行乎夷狄。素行乎患難。素行乎威武。素行乎富貴。素行乎貧賤。素行乎一人則於一人。素行乎天下則於天下。素行乎萬志於易

者。戒其未形。慎其未萌。而後泰然。安處其數之不可如何。此之謂悟變革之幾。蓋深於易者也。若夫仍卜筮以避之。絕欲以就

賑給者不足與語也

文化丁丑初冬

百年溪世題

周易餘師凡例

陽画陰画の圖

上卦五四三二初
上下内外の圖

乾上 乾下

逆數の圖

卦外卦貞悔の圖

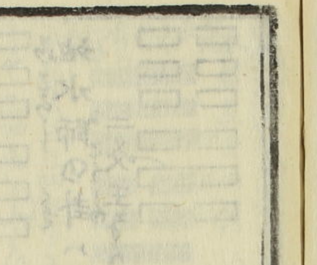
水雷屯の圖

坎上 震下

周易餘師凡例

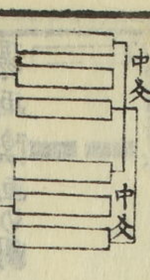
易の創興ハ唐土の御世の初ある天子と伏羲の帝と号て易の八卦と作りその八卦と重交して六十四卦とある此書よのもる象形のごとくハその六画ともに一二三四五六として但一ハ一にて初とする次ハ下よりかぞへて一二三四五六を上ととる〇陽爻とそのごとくハ終に六として六ハ陰るがゆへなり〇形できるとて六として六ハ陰るがゆへなり〇形できるとて九として九ハ陽るゆへなり〇陽爻交て乾の卦のごとくハ初九九二九三九四九五上九とつて〇陰爻ハ中断して坤の卦のごとくハ初六六二六三六四六五上六とつて〇六画ともに陽交なれバ坤下坤上とする〇色の卦のごとくハ震て下ともに一坎と上ともに一色の卦にて外卦ハ坎にて内卦の一名と貞として時ハ内卦ハ震にて外卦の名て悔とて内貞ハ下卦にて外悔ハ上卦にて其他もこれに例たとへバ色の卦ハ震下坎上の類なり余ハ推て志るべし

方位の圖



君臣位外の圖

二五相應爻圖

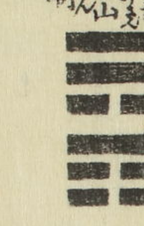


○方位とそいひ卦と四方四隅のかおうつくるるうひつ東ハ震なり西ハ兌ニ南ハ離ニ北ハ坎うるうるうれそハ巽なりいつもさるハ坤ニいぬいハ乾うるうるうハ艮まるまるまるま

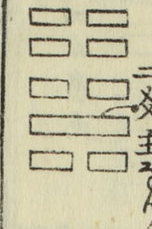
相應不應の図



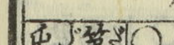
不應　不応
比　並の図
想應



陽比　陰比　陽比
主爻の図
山地剝の主爻六爻主之



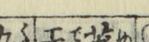
地水師の卦は二爻主之



助もたすくるとよむなり又應与ともよむ
ふさうろ与ともよむるとの心なり
○陽爻と陽爻と相對するを不應となづけ
おそれくるしむなり又陰爻と陰爻と對するも
同斷なり又敵應ともいふ
○又初と二と陽爻又陰爻ともに敵と應對との心なり
比とは比ひたしむなり
同斷なり但し上の爻と乗とこゝろ下の爻と承とこゝろ
○二と五とを應ぶるとを以て吉となり四と五と
比ふるとを以て吉となりまた四と陰爻と吉となり子細
八五の君ふ遠くして恐多く順柔の道となつて
むなり二と五の君ふ遠くしてその身外ふなりとなり
その人ぐらゐ大丈夫にして君ふかりて下と
率御するとなるとこゝろなり
○又一卦の内にて主爻としてこゝろの有・乾の卦をさす
なり吉
○又一卦の内にて第五爻を主・坤の卦をさす
もの卦ふその初始由〳〵初爻と主とし・蒙の主をさす

本卦互卦の図

本卦
互卦
風山漸



本卦の三四を下よりして三四五を上とし
二爻なり・小畜・四爻うりの類おゝて知べし
○易と數用ふるの通じがたきを縦横ふ才のこゝろにて
ハ通じがたきを元より定格なく典要うさのもの
ゆゑ變なるの法
○蓍數之法
蓍の數ハ五十本なり内一本と大極と名づけて
天地未ふ分の象と表して中央ふ立ときり残の四十
九本と両手にて一挙ふ左右へ二つに陰陽の象と表
かぞへよむなり但し四本と一變ふ扱左右の蓍とを
かぞへるとをくりかへすこと十有八變ふして
一卦の形と生ずるとなり又三爻も四爻も五爻も變ずるとなり
二爻と變ずるとを以て六爻総變ずるの時ハ乾の卦ハ坤とかり否乃
卦ハ泰とかり又無變の時ハ乾の卦ハ乾坤の卦ハ坤とかり但し變爻の出來るとてハ老陽と
老陰とより數ふる少陽少陰の數ハ變とせずして不變とするとなり

○世ヨ俗易ノ法ハ本ツヾク〳〵有・蓍トカゾ一ツヽ〳〵両度ホシテ一卦ヲ生シ〳〵三度メシテ変卦ヲ生ゾクナリ一爻変ジテ無変トツヽメテ又邵子ノ年月日時ノ数ヲテ卦ヲ生ズル法アリ又攬銭ノ法アリ筭盤即數ノ法アリ又ヲノ〳〵マヽニ術トシテ見ルコトヽキ〳〵音ヲテ卦ヲトヽノル法アリ又本著ヲ畧揲ヲシテ六変ヲ卦ヲ生ズル流義アルアリ

○卦象ヲ見ル多端アリ裏面トヲ有ヲヽ

否ノ卦ヲテヽルヨハ裏面ハ泰ナリ否モ上ヲ極マル時ハ泰トヽルノ心ヲ

心ヲテ謙ヲヽヽヲヽヲヽレ

○来ヽヲヒ行トヽヲヽ

行テ大有ノ卦ヲヽヲヽヲヽ同人ノ離ハ内ヽヲヽ

ノ二爻来テ地山謙トヽルヲヽヲヽ同人ヲヽ野

ヲヽヲヽ謙ハ功成テ名ヲヽヲヽルナリ

○无妄ノ卦ヲヽヲヽ自然ヲヽ尚好ノ象意ヲヽヲヽ

善人ヲヽヲヽ吉トシ

トナルヲヽノ心アリ

○又全卦六爻ヲヽヲヽ不善人此卦トヽルヲヽヲヽ不吉

意ヲヽヲヽ斑見ルヲヽヲヽナリ三爻ヲヽヲヽ

○又爻変トヽヲヽ卦ノ二爻ヲヽヲヽ

意ヲ見ル処ハ

三四ヲヽヲヽ

離ノ兌

○又全卦六爻ヲヽヲヽ

意ヲ斑見ルヲヽヲヽナリ二爻ヲヽヲヽ

○文王ノ彖ノ辞ヲヽヲヽ卦ヲヽヲヽ説ヲヽヲヽ又卦ノ主ヲヽヲヽ説ヲヽヲヽ

○又爻変トヽヲヽ有乾ノ二爻ヲヽヲヽ

大有ノ象ヲヽヲヽ

徳ノ象ヲヽヲヽ

巽ノ象アリ此ニ二

三四ヲヽヲヽ

・裏面ハ地水師ノ象ヲヽ・三爻

五爻ヲヽヲヽ大有ヲヽヲヽ

爻変ノ例アリ又裏面ノ坤ヲヽヲヽ昭公廿九

年ヲ此卦ヲ論ジ

此意ヲ以推ヽヽヽ

○又八卦ノ象ハ乾ハ天也純陽ノ沢ハ離ハ火ヲヽ震ヲ

雷トヽル巽ヲ風ヲヽ坎ハ水ヽ艮ハ山トヽル坤ハ地トヽル

○又陽爻ノ二画ヲ件属スル物ヲヽヽヽ

○陽爻ハ陽ノ虛ニ一ニ暗ニ遠ニ柔ニ貧ニ愚ニ小人ニ女妻ニ此ノ如ク推テ知ベシ

○又卦ノ字ノ心ハ掛ノ字ノ義ニテ掛ルト云コトニテ物ヲ高所ニウケルヲ見テ明白ニ人ニ示ス事ト成ル

○又陽爻ノ一形ハ剛ト云ヘル辭ニテ此ヲ重テ乾☰ノ形ト成ルトモ純一ニ剛強ト以テ陽爻ノ德ニ名ヅケタル也●又陰爻ノ形ハ柔ト云ヘル辭ニテ重テ坤☷ノ形ト成ルトモ純一ニ柔和ト以テ德ニ名ヅケタル也

○乾ノ九五ニ曜ト云ヘル辭ハ一陽ノ地ヨリ出ノ心ニテ龍ノ象ヲ以テ天下ノ民ヲ推テ察セシメンガ爲ノ類ハ推テ察ヒテ見ルト云ヘル辭ニテ水地比ノ意ナリ此ノ

周易餘師凡例終

周易卷之一

易ハ陰陽ノ二字ヲ合テ易ノ字ヲ制シ六十四卦ヲ八卦ヲ重テ成ル大義ヲ述ル傳云大昔伏羲氏ノ王天下ヤ仰テ觀象於天俯テ觀法於地ト云ヘリ伏羲氏ノ王天下ノ時ハ日月ノ運行ヲ觀テ天地陰陽ノ道ヲ知リ又鳥獸ノ文ト地ノ宜ヲ觀テ陰陽ノ變ヲ知リ初テ八卦ヲ畫キ重テ六十四卦ヲ成シ給ヒシ也

上經　下經ト云ヘル聖人ノ道ヲ今ノ上下二卷ニ分ケ給ヒシハ天地陰陽ノ始ヲ重テ上經ハ天地人間ノ事ヲ下經ハ人間ノ男女夫婦ノ事ヲ首トシテ記シ給ヒシ心ナリ

乾下乾上

乾ハ天地二卦ノ二ノ乾ヲ重ルト云ヘル辭ニテ一ハ上ニ在テ外卦トナリ一ハ下ニ在テ内卦トナル天象運旋シテ已ザルノ貞ナリ

周易卷之一　上經

乾下乾上

周易連山の図　艮下艮上

周易歸藏の図　坤下坤上

乾ハ元亨利貞
ふるう

○乾元亨利貞。こと辞王の作の人象の辞なり彖の字の心を断の字よおうし一卦よ就て吉凶利害の理義と決断しめんとの義之乾ハ天なり初よ天の四徳と述のふ元と善なりと訓て善の道なり和訓ハそむる又おいるるとも善の字の心ありてこれいくほめんぐ〳〵そなり春なり仁なり万物春と待て仁くそなつくる天子の改変ていうらて一物として善之道とてそもも元ハ善ニと注す事の字の心を障塞うくふりとけて達るなり貞と守て心の変動ぎるお義なり右乾の四徳ハ天下の主そる帝の御徳なり又一ヶ國よ王そる諸侯伯そと大家よぬしそる大夫まそ一軒の亭主といふ迄も人の長そるとの心得べきよ拠て同断なるべし又貞を拠守とていふ可といへども一迎ふかそうなづて應変宜きとうしそとありてこの四ふ貞なるをバ以なりとも又貞うふ

初九ハ潜龍用ふることなかれ

○初九潜龍用勿用。凡例おくの述べ爻の辞ハ下より上よ数ふるの乾の初爻とそけバ下卦ふ巽の象ありて陰面そ地の性ハ陽動なるとふ龍の象とかりてていくものなり○爻の辞ハなづむしそその意卦象と推もろめそ狭く○乾の初爻ハ賢者の時運てらバ下ふ潜かくるの義とバ上ふ志ざる時ハ身と己と用ひて変と執行んとすること勿れしとの意なり○もし小人ふ制ぜらるゝ時ハ終ふ永く進こと得ざるしも此れ恥辱の意なり○進て変と成の意なり○転用して

九二見龍在田利見大人

九二見龍田ふ在

大人ニ見ユ利アリ

九三、君子終日乾々。夕惕若。

上の父も右坤の二父と同人の二父と又一二三乃離の義ニて合ルなり○龍見現て平地田場ニ出ルなり初父ニて潜ミ二父ニて中央明白ニ出ル三父ニて身ハ九ニ升て中央明白ナル位ニ在リ○五父の明君上ニ在テ此ニて拳用ヲ見ル利アリ○この父の賢者ハ大徳の明君ニて見ル利アリ○五父の君ハ大徳の賢人ニて拳用ヲ見ル利アリ○二五利見ト乃公道ニて害ヲ去リ同人の卦ニて文明の賢徳有ルなり同人の卦ニて文明の賢義カノおゝ○この人ハ文学明ニして徳ニ成就シ才智ニ達セシ賢者ニて離ニて離ルゝなり○変卦裏面変父の三ハ六十四卦ヲ畢ニて一々ニ父ニ限ルこの意ニてよろづ凡例をよくこゝろえてかんがへべし

○九三君子終日乾々夕惕若

離ハ例ニ云ごとく天澤履と地山謙と二卦ニ通合ろ卦ニて終日ととも人の目ハ晝ニ限ルゆへ實ハ進ミ止ルともニ此父ハ陽父三重ルゆへ乾そとにて怠ルなきなり但し君子の進ハ善の道ニ幸ハ尓ニなるゆへまた窓ニ前タヨ心ニて惕若ニ答なるべしとなり一説ニ時ハ厉危ニて惕若ハ厉ニ心ヨ惕若ニ厉ヨと

或躍在淵元咎

の答ニおゐてハ説作ニ在テ脇の辞ハ限ルこの意次の章ニ龍の字ヨ掲ルゆへ時ハ辞ヨ義理ニ在テ典要なくその意ニ推ルなり○君子ハ身ヲ慎ミ徳ヲ由テ進退ニても厉キ答ヨ知ベし○九四

或躍在淵元咎

此父雷地豫と小畜と合ニ又巽と離の意ニ乱なり○陽父下ニ在テ外ルゆへ躍ルと云ども心有て又淵ヨ不ルゆへ○四父の君ヨ

九四或躍在淵

一説ニ九四或ハ躍テ淵ヨ在ハ咎无

乾々タヨ惕若ニ答无ハ属キも答无又一説ニ乾々タヨ惕若ニ答无ハ属めい

九五飛龍在大人と見るを利と

近とくむしろ有ゆゑにの場所と心おそれて身と退くまるゆゑに○又今距怒る所なくまた畜止しくまる意ありて○又龍あるゆゑに躍ると小畜ありて○躍と一陽ある出の心ありて帶地豫の意ありて○一說ふ龍あるゆゑに躍る淵み在ば怒ると意ありて六爻ある龍と說ともる用九群龍と變異魚の象あるゆゑに○或と定まるを訓ともよし

利見大人

下とある上ありて伝ともる所ゆゑに飛と人の助ありて見てなり明君天下と治まるを言利と此ゆゑに政刑とゆゑに○離の文明の德ありて天下國家と君ともる身ゆゑに大德の人と見てなり

○九五飛龍在天

注ともる進ふ見る心ともるまゐまゐ知ざる時ゆゑに○よろ意あり○日中と過ば必ず剩の意あり○盛執ゆゑに乘ともる夫乃ち○身とともる浮気ゆゑに○危の意ありて○用九見群龍无首吉

○上九亢龍有悔

亢ともるが上ゆゑに六爻乃極ともる

○用九見群龍无首吉

乾の六爻ともる龍と小陽の七數と用得ともる本今元亨利貞の九數と用得ともる乾乃群龍无首と說ともるゆゑに○老陽乾の卦ともるゆゑに乾の意と說ともるゆゑに○老陽乾の卦ともるゆゑに六爻ともるゆゑに變じて率和ともる時ゆゑに衆の剛気強暴のともる化して

上九亢龍悔有

用九群龍首无と見る吉ともる

坤下坤上

坤元亨利牝馬之貞君子有攸往先迷後得主利西南得朋東北喪朋安貞吉

坤ハ元ヲ專ル牝馬ノ貞ヲ利ヲ君子往彼有先ンデ迷後テ主ヲ得ン西南ヲ朋ヲ得東北ヲ朋ヲ喪ヲ安貞ヲ利ル吉ヲ○又明ヲ喪ヲ利ルヲ主ヲ

坤元亨利牝馬之貞

坤下坤上

坤ハ陰ノ伝ナリ○東北ハ陽ノ伝ナリ○陰ノ明ヲ吉利之伝ナリ○陽ノ伝ナリ○陰ノ明ヲ吉利ノ伝ナリ○陽ハ陰ヲ偏ヨリ陰ヲ偏ヨリ首テ伏ス元ソノ元ヲ萬支ルヲ得ヨウ吾利ト云ヘルハ皆通用ノ説ナリ○凡テ此書ヲ認取ヲ意テ添所ハ胡邵文等ノ説ナリ

坤下 下卦ト坤ヲ上卦モ坤ヲ重ルニ例スル由ヘ後々ハ畧ス

坤上 六十四卦ナリ

君子有攸往

君子ハ剛陽ノ徳ヲ創造テ剛陽ノ徳ト云ヘリ坤地ハ下ヲ馬ノ性ハ柔ナリ馬ノ性ヲ以テ徳ヲ云ヘルナリ

先迷後得主利

柔順ノ性質ヲ駈ヲ人ヲ奔奮ヲ安住ヲ貪ヲ柔順ノ人ヲ随ヲ随順ノ徳ヲ以テ人

して利ろしく不る无し

大不習无不利

して正きて万方を直方大とは坤の徳みづから地の形として一直にして平直ふかきが故に大なりと方を直くするとて六方面ともに道の本分を尽して方隅にも大臣の道にも其身直くして大臣の道は行義方直にして量ろく大なる徳に帰して服せざる民人なきを吉利あるべきなり

六三含章可貞或従王事无成有終

章とは徳の文章外にあらはさゞるを含むとは徳を内にかくして人に知らしめざるなり貞とは正を守ることなり王の事とはもろ〳〵の王の事にもあるべし心を用ることなれば事成りがたきものなれども能く終て全有するこそ○又王に事へて功を成すといへども己が心おごり成ることなく无ほどなきを思ふべし

六四囊括无咎无譽

括は結ぶなり囊は袋なり袋の口を結ぶ如く言を慎み身を謹おそれ禍を避けて福を願ふこの二卦の意をとるべし○六四

括囊无咎无譽

括囊は袋の口を結ぶ如く言を慎み身を謹おそれ禍を避けて福を願ふこの二卦の意をとるべし○六四

六五黄裳元吉

黄は坤の色なり裳は下に着る物なり君の位に在りて柔中なるを以て黄裳とす又君を輔佐する大臣の徳ありて君の徳有ることを比親つゞまやかにして周公の成王を輔佐し給ひしが如し○この卦は内卦は親王の八幡太神を守護し奉りし如く外卦は水地比上六天火同人の二卦と見る

六五黄裳元吉

黄は坤の色なり裳は下に着る物なり君の位に在りて柔中なるを以て黄裳とす又君を輔佐する大臣の徳ありて君の徳有ることを比親つゞまやかにして周公の成王を輔佐し給ひしが如し○この卦は内卦は親王の八幡太神を守護し奉りし如く外卦は水地比上六天火同人の二卦と見る

上六龍戰于野其

上六龍戰于野其

其血玄黃

用六永貞ニ利ス

震下 坎上

血玄黃

龍ハ陽ノ物ナレドモ野ニ在ルトキハ上六ノ陰ノ象ニナルナリ上六ハ陰ノ極ニシテ天ノ色タル玄ト地ノ色タル黃トノ血ヲ上ノ爻ハ外ナルユヘ戰ヒトモニ陰陽アリテ相ヒ傷ルユヘ詞アリ○陰ハ競爭和セザルモノナレドモ上ニ在テハ下ヲ攻ルヿヲ得ズ陽ハ剛ノ卦ニ裏面夫ノ象アリテ一陽ヲ以テ五陰ヲ攻ルヿヲ得ルヿナレドモ陰ハ永久ニ貞ヲ守ルヿヲ得ズ是レ爭競ノ本ナリ○用六利ニ永貞

陰ハ陰ノ本ニシテ大ナルモノナレドモ老陰ハ衰耗シ老ユルヿヲ得ズ是レ陰ノ本ヲ以テ貴ト爲スニ臣ノ君ヲ蔑如シ卑賤ノ貴ヲ賊害スルヿヲ得ルヿナシ是レ陰ノ用六ノ戒心ナリ

震下 坎上

屯元亨利貞勿用有攸往利建侯

右ノ卦ノ意ノ如クナレバ内ニ險ヲ含ミ外ニ動ヲ具ヘ險ヲ冒シ動ヲ出ヅルノ時ニ當リ萬事ノ創業ニ當ルヿ故ニ元亨ノ德アリト雖モ利貞ノ道ニ非ザレバ往ク攸有ルヿヲ得ズ故ニ勿用ト戒メ侯ヲ建ルヿヲ利トス

屯ノ字ハ艸ノ芽ノ地ヲ穿テ出ントスルノ形ニ象リ艸ノ芽ノ地ヲ穿テ出ントスルニハ必ズ屈曲シテ其ノ形中乃頭ノ如クナルヿヲ免レズ是レ屯ノ字ノ義ヲ取リテ名ヅケタル所以ナリ

○下ノ震ハ動ナリ上ノ坎ハ險ナリ險ヲ冒シ動ヲ出ヅルノ時ニ當リ萬事ノ創業ニ當ルヿ故ニ元亨ノ德アリト雖モ利貞ノ道ニ非ザレバ往ク攸有ルヿヲ得ズ故ニ勿用ト戒メ侯ヲ建ルヿヲ利トス

屯ノ卦ノ意ノ如クナレバ内ニ險ヲ含ミ外ニ動ヲ具ヘ險ヲ冒シ動ヲ出ヅルノ時ニ當リ萬事ノ創業ニ當ルヿ故ニ元亨ノ德アリト雖モ利貞ノ道ニ非ザレバ往ク攸有ルヿヲ得ズ故ニ勿用ト戒メ侯ヲ建ルヿヲ利トス

初九盤桓利居貞利建侯

屯元亨利貞勿用有攸往利建侯

屯ノ卦ノ意ノ如クナレバ内ニ險ヲ含ミ外ニ動ヲ具ヘ險ヲ冒シ動ヲ出ヅルノ時ニ當リ萬事ノ創業ニ當ルヿ故ニ元亨ノ德アリト雖モ利貞ノ道ニ非ザレバ往ク攸有ルヿヲ得ズ故ニ勿用ト戒メ侯ヲ建ルヿヲ利トス

屯ノ字ハ艸ノ芽ノ地ヲ穿テ出ントスルノ形ニ象リ艸ノ芽ノ地ヲ穿テ出ントスルニハ必ズ屈曲シテ其ノ形中乃頭ノ如クナルヿヲ免レズ是レ屯ノ字ノ義ヲ取リテ名ヅケタル所以ナリ

○下ノ震ハ動ナリ上ノ坎ハ險ナリ險ヲ冒シ動ヲ出ヅルノ時ニ當リ萬事ノ創業ニ當ルヿ故ニ元亨ノ德アリト雖モ利貞ノ道ニ非ザレバ往ク攸有ルヿヲ得ズ故ニ勿用ト戒メ侯ヲ建ルヿヲ利トス

初九盤桓利居貞利建侯

初九ハ屯ノ卦ノ主爻ナリ又震ノ陽爻ニシテ外ニ動テ出ヅルノ象アリ然レドモ初ハ屯ノ卦ノ時節ニ當リ萬物ノ始メテ地ヲ穿テ出ントスルノ時ニシテ未ダ地ヲ穿テ出ヅルヿヲ得ズ是レ盤桓ノ象ナリ然レドモ震ノ陽爻ニシテ動ノ主

六二屯如邅如馬ふの乘て班如寇をふ匪婚媾ふんとを女子貞くして字せ不ず十年乃へち字すす

きゐれども下ふ有て時と得ざるゝ〇盤桓とゝもぐゝれ白まるうぐゝとゝも上ふ險坎あるが由ゑ〇貞くを正くゝ守てゝ心とうぐゝぬゑ時節とまらて飯の位ふ居て利吉くゝん〇尊貴と以て卑ふそるゝ尊貴の人ふ初九の陽爻之卑き人の徳よて建て戻くゝ上の三陰とて〇實ハまの建ゝバ下の賢と挙て治術とるゝ利有人ゝふ比そるの徳有とぐゝ水地比の意ゟり〇六二屯。

如邅如。乘馬班如。匪寇婚媾。女子貞。不字十年乃字。

又変爻の発ハよろえん所ゟりてをゝぐゝ初九の陽のぐゝ震て二爻の陰と犯ふ如くゝ寇ともいふあゝで婚媾となえんとそれども六二己ふ應ぐゝ五爻の陽爻ゟるバ艱節と守て心とうぐゝぬゑ水澤節そて二ゝ女子ハ名ゟるゝ婚媾

六三鹿ふ即て虞无惟林中于入君子幾舍ふ如不往バ吝ー

そゐひ嫁とゐるゝ后字とゆくゝ不字ゝゝ心とゆるゝぬくさてまるゝ五爻ゟるゝ應るまゞゝ有て往ぐゝーとゝ坎ゟるゝ險ゝつゝをゝぐゝ嫁ゆるゝ終由ゝつゐふ時節〇六三。即鹿无虞。惟入于林中。君子幾不如舍往吝。

進どゝ相也聚て利有ものゝ志ゟるゝ已柔ゝーて承乗ふくゝーて應ぐるゝ輔なゝー虞ハ山中の官ふゝーて地の利ふくゝーゝゝ虞るけをゝかとゝをゝさりのもゝーむる時漢楚并ふ陳渉呉廣の人々ゝをとうゝーゝゝ秦帝天下とうゝーゝゝ鹿と禄と通ゝて天下ゝ大禄大利ゟりまゝゝ鹿ふてゝ前ふ坎難有て震ゝゝむふ利もゝーゝゝ其幾一見きゝゝて舎まるゟりゝ智有君子ハゝゝ此の父変ゝて剛才明離明ゐるとゝて決断ゝゝと

六四馬ニ乘テ班如タリ婚媾ヲ求ム往テ吉利ナラノ不ルコト无シ

九五其ノ膏ヲ屯スル小貞吉大貞凶

上六馬ニ乘ル

班如タリ

坎下艮上

蒙ハ其ノ正ヲ養フ聖功ナリ子ノ曰ク蒙ハ以テ正ヲ養フ聖功ナリト

蒙ハ亨ル我ガ童蒙ヲ求ムルニ匪ズ童蒙ノ我ヲ求ムルナリ初ハ筮ヲ告ゲ再三ハ瀆ル瀆レバ則チ告ゲズ利貞シキニ利ロシ

經曲象附

柔陰ヲ以テ上位ニ居ル而シテ上ニ位ヲ有ツ能ク下ノ坎難ヲ險ヲ知ル而シテ血ノ泣ヲ連如タリ屯難ノ象ナリ

坎下艮上

蒙ハ山ノ下ニ出ル險ヲ以テ止マル蒙ノ象ナリ

蒙ハ亨ル時中ヲ以テ應ズルヲ謂フ

我ガ童蒙ヲ求ムルニ匪ズ志應ズルヲ謂フ

初ハ筮ヲ告ゲ剛ヲ以テ中ヲ尚ブヲ謂フ

再三ハ瀆ル瀆レバ則チ告ゲズ煩ヲ謂フ

蒙ハ以テ正ヲ養フ聖功ナリ

坎下艮上

蒙ハ山ノ下ニ出ル險ヲ以テ止マル蒙ノ象ナリ物ノ稚クシテ蒙ナルハ皆ナ險ヲ以テ止マルノ象ア

初六蒙て發く用て人て刑に用く桎梏て說て利を以く往ば

九二蒙て包吉之婦て納吉ろ子家て克こ

六三女て取ふ用ゆろこと勿金夫て見て躬て有不利を
る攸无

六四蒙ふ困しむ吝ひり

六五童蒙吉う

經典、除而

周易卷之一

童子より教て求るこそ筮こと師の方より求有ふこと
筮こと師と瀆ぬること道理とふぬるこそ
教て筮時を初て告さる一再三告こさ押々一
く洗こと支て如くこと貞正ふ利一

○初六。發蒙利用刑人用說桎梏以
往吝

蒙を發こと道理のこと
て一むる時ハ其心のへんくつこと
せ梏ハてごとく說こと
すこと一ほぐみて民と治るの法こと
ちづこそものこふなり往時ハ吝げて不足うこと

○九二。包蒙吉納婦吉子克家

て裏面ふ離明とふく
民の愚昧うるこ色容てそぐそ中一

頤養中饋

の象有ゆへふ婦納と吉なり五爻以下ふ地水師の象
有て衆人の心のこと
こと一こと一こと一

上九 蒙と撃て寇と為ふ利ろし 不寇と禦ふ利ろし

乾下坎上

需い孚有て光亨す貞吉大川を渉ふ利ろし

吉蒙の卦にして君位陰柔なるを以て幼少の君主にして二の陰ふ順従ひ従がふ賢人と敬ひ身を慎むの象ありて君ふ吉ふるときは蒙ふ利ろしと雖ども太平の時ふ寇と禦ふべきの本人ふ寇うべきの人ふ寇うべきの本人ふ寇うべきの人ふ寇うべきの本人ふ寇うべきの人ふ寇う

出づ

九五酒食于需之貞吉

上六穴于入ふ速客三人来有之敬之終よ吉ふ

需于血出自穴　四陰柔弱の身として下より進ふる三陽の剛ふ當ふる此險難ふ

ふ傷付の象ふこの故ふ血ふて云ふ穴ふ物の安止の処ふ今ふが身安堵ふるふこの故ふ穴より出ふ之ふ

○九五需于酒食貞吉　九五陽剛中正ふて君位ふ居ふ

悠ふ道ふ以て需ふふ酒宴食餐ふり

有不速客三人来敬之終吉　上六需ふ終ふ居ふ需ふて

ふ一下ふ三陽ふ出ふ

○上六入于穴　極めて下ふ

ふ六ふ陰ふ止まる処ふ

入て止まる下ふ三人退々ふ進ふ

三人ふ客来ふて

ふふ六ふ陰位ふ止居ふ正ふ

元ふ

賢者ふ

訟有孚窒惕中吉終凶利見大人不

利渉大川

永貞事小有言終吉　初六不

坎下　乾上

訟ふ孚有て窒ふる惕ふて中ふれば吉ふ終ふれば凶ふり大人ふ見ふるふ利あり大川ふ渉ふるふ利ふら不

訟有孚窒惕中吉終凶利見大人不

利渉大川

坎下　乾上

乾の天ふ上ふ行て坎の水ふ下ふ行ふて心險く外乾ふるも争訟の象ふり

訟有孚窒惕中吉終凶利見大人不

利渉大川

永貞事小有言終吉　初六不

○初六不

守を履て往ば咎ありと戒る時は難を忍ぼるゝ
兒の口言にても小ぎれいにても支の永引ざるを終て吉とす
なり

百戸无眚

〇九二不克訟歸而逋其邑人三
百戸无眚

訟と克せず不歸て而して逋ろ其邑人三百戸眚ろひ无し

〇六三食舊徳貞厲終吉或從王事无成

六三舊徳を食貞うれば厲し終に吉なり或は王事に従ひて成ことなし

九四訟へ克せ不復て命を即渝へて安貞吉うり

九五訟へ元吉うり

上九或ハ之を錫帯を鞶と縜と

爭訟の心にてのぞめバ凶なり陰柔の偽ありて訟爭の心有時は
未終ハ吉といへども正きを復ハ巽順うてのこゝろなければ我意
をとげてよりのなり

渝安貞吉

此爻變なれバ巽となりて漁ふの象
にて君ふたゝび王の支をさゝげ守てつゝしむと成

〇九四不克訟復即命渝安貞吉

命を渝り上の命を即しと
凶支ハ濁りふ安貞うる時も吉へども貞固と安貞と同うべ
からず中ふ安貞うる時を吉へども貞固と安貞と同うべ

九五訟元吉

この爻の變と離ふ未濟の卦
にて上位と以て訟爭のこゝろ

〇上九或錫之鞶帯終朝三褫之

裁斷する人ひて智有ふ未濟ふして消成ず
意有ふ私ふて用る時ハ必ず元大と用ゐるて吉ふ

うして上九ふ外て以て強ふ過て勢ひふ高ぶるふ
ぜいふ訟爭て遂て心ふ兌悦ふ義理ふ

坎下坤上

師貞丈人吉无咎

師貞丈人吉无咎

晞旦之勝と賞美し上より磐帶のことまりの有も終朝のうちに又視奪らることと朝とて六時より五時ふくるまの間なり磐帶とて終朝と爵命とたまる時の帯なり

坎下　坎水と下
坤上　地と上ふくると
地水師の卦となり

この卦と師の象にて師と衆の陰爻と衆兵の象にて丈人と大將軍の形とう六五の君より九二の大將ふ任ずるの象にて又外卦八坤順法令と正して名目ふかるゝ理なり順隨とて又坎水と内卦と内ふ險難とうることと設たくいるゝ又水の地ふうるゝ水の地ふまさるゝ形と変じて兵勢の形と変ずるまでも以て軍ハ敵ふよりて変ずるまでもなり

師と師と人と教諭ふると師と權と握てその威内外遠近ともに忠と守ふ臣の総と犯ましくうえとてゝ丈人大將ふ任じさるゝの丈夫とて軍戰のことゝ一人ふ指摩して衆卒生死ふより夫より國家の存亡ふかゝる任司しむべうぐあゝべう

初六師出ふ律否臧凶

師と師と出ふ時初爻にて變ずるとハ臨の卦となる師ハ實ふ此うえ國家乃大事もれバ衆人ふ臨ふ法律嚴重うて第一ふ律ことの軍の作法とのひるてゝ陣法謀畧人衆の備うけたんまんうゝべうて法律ふ不足うるとゝ大將うゝ器量ふ

初六師出ふ律と臧ら否ぶ凶

九二在師中吉无咎。

卦辭ふ衆ふる大將軍の任ふ信ドてその德ふ順同ふて吉ふて咎无王三ゝびて命ふ賜

九二師中ふ在吉ふして咎无王三ゝび命ふ賜

將軍と爲ること（あげて大將に命ずるの辭）天子こゝも
からゞゝゝ一命して將に拜ゝ壇とするに（三命ゝ
ゝ弐有り鉄鉞を（祀あり又君の命令の辭令
も）梱外のことは唯將軍の心のまゝ（梱内の支
配）

師或輿尸凶（この爻變じれば全卦は外卦下卦
車馬の說のうち愈れり）○六三
（一說に爵服の登壇の說のうち）

○六四師左次无咎（柔暗にして師を將ゐるの器量ゝゝ二三四と
互の震ゝに敵ゝゝ）

六四師次ゝ左ゝ
答无ゝゝ

六五田に禽有言

執ふ利ろ（答无長子は師を帥ゐ弟子は尸を輿
ゆ弟子は尸を輿
ゝゝ貞凶）

无咎。長子帥師弟子輿尸貞凶（師は順を以て逆を討ゝ
元より言ありて名目の正ゝゝ）

上六大君命有國（開く家を承く小人は用ゐること勿れ）

經典余師

田地に禽獣ゝゝ又一說に田地に荒ゝゝ
言を執ゝゝ）

後ゝその言ゝゝ執て傍人の言あるがごとくんば此軍ゝ用ゐるの肝要ゝゝ

大君有命。開國承家小人勿用（この爻變じれば坤の上爻となる）
（坤は貶ゝゝ師の上爻已に賊ゝゝ）

應變ゝ妙時ゝ奇變ゝゝ

寬容ゝゝ將ゝ師ゝ大君ゝゝ長子ゝ大將ゝ
ゝ仕ゝるの才有ゝゝ師ゝゝるの器量有ゝゝ弟子ゝ
ゝゝその任ゝ不足ゝゝ將の拙ゝゝ時ゝ軍卒ゝ
ゝたづゝゝ尸處ゝ輿ゝゝるの敗軍ゝゝ軍戰を臨ゝ奇

○上六

坤下　坎上

比吉原筮元永貞无咎不寧方來後夫凶

比吉也下順從也原本也筮決也元大也永長也貞正也无咎也不寧不安也方來謂四方之來比己後夫凶謂後來者凶也

比輔也相親相輔以從上也爻皆陰柔比於陽剛五又比於上陽剛中正而上下應之故吉原筮元永貞无咎也不寧方來後夫凶也

比吉原筮元永貞无咎不寧方來後

比輔也下順從也原本也筮決也元大也永長也貞正也无咎也不寧不安也方來謂四方之來比己後夫凶謂後來者凶也

比輔也相親相輔以從上也爻皆陰柔比於陽剛五又比於上陽剛中正而上下應之故吉原筮元永貞无咎也不寧方來後夫凶也

比吉

き人なし
○六四外比之貞吉
中の君と承ること内にして親比するは理の常なり外にして親比の類萃會は貞正を守るべし吉とは此の爻の変は萃
○九五顯比王用三驅失前禽邑人不
誡吉
五は親比の主なり私已を以て比するもの
先王武と講ずる為の田獵とす
先王物の生を絶ち尽すべからざるの
方より驅ること又一說に三驅とは三面
除て一方より驅ること前の方へ逃さゝること
文王の風人を誡禁しむるこの心は上下
荒雉究も共に
已むことを有時は吉とぞ
○上六比之无首凶
此親乃道
まりつゝ
上に在て應ず
初二三四は九五の君と首ゝて上ふ

輔うさがごとく上六は
乾下巽上
巽下乾上
小畜
性と得ゝ君
主爻うれば君の寵愛
君の寵愛と得る五の陽爻と承てこゝろざしを
陰の力つよく陽を
依て小畜と名つけ
小畜亨密雲不雨自我西郊
雨雲
密て雨
ふりそゝぐの象
の天上にのぼりて吹て下ふ
ゆく陽をさまざる時は和ぶ
て雨ふる由
西は陰のうごく艮の風乾
陰より物をとゝのへはごむ
雨沢と下ふ
どこととを
○初九復自道何其咎吉
初九は復と道自
小畜は亨密雲雨
ず不我西郊自
乾下巽上
上六は比之无首凶

の初爻変じて乾も又巽の初爻変じて離ハ陽卦ハ奇ニ陰卦ハ偶ニ入外て上ニ来て卦主の陰爻の應助あり四爻ハ三四五の中爻離うる也ニ爻明の智と以て君意とうけて應助をなし本よりその道ふて何ふす吉うり

九二幸て復吉

幸ハ皆ニ爻初爻の陽ふ幸てゆくなり

九三輿輹と説夫妻反目

この爻の変て離ハ附麗ニ初陽ふ就く復のぶる中ふる也凡人共ふ方ふくさ時節をうしなひざるこの是なり

○九三輿説輹夫妻反目

輿のまつりけと説兌ようこべなどもに正應ふあひけがるるもり終と遂ざるとすなり輻と車の輪のせあて行ふ所ふして車ふ輿ふ説ふ夫妻の反目なり

六四有孚血去惕出无咎

○六四有孚血去惕出无咎

上下の陽爻ハ君位ニ陰柔の力と以て陽乃剛ニ居る帰ニ應ふる象ふて畜乃大ふ

○九五有孚攣如富以其鄰

五ハ君位ニ陰柔の力と以て陽乃剛ニ居る帰ニ應ふる象ふて畜乃大ふ

九五有孚攣如富以其鄰

九五孚有て攣如うり富ふ其鄰ふ

上九既雨既處尚徳載婦貞厲月幾望君子征凶

上九ハ既ふ雨うり既ふ處徳の載を尚ぶ婦貞ふるべし月の望ふ幾ふ属ふ君子征ハ凶ふり

陰と去て陽ふ変じ出ハ絶乾とうるつの爻ふ卦ニ五離ふ応ハ妊娠の智ふなりて富乃大ふ

○九五有孚攣如富以其鄰

この爻三四五と以て互離ふる二卦主の四の畜止の道と聴ふるの象ふて攣如うるつの象ふて富乃大ふ故ふ富以其鄰ふ

○上九既雨既處尚徳載婦貞厲月幾望君子征凶

既ハ盡ふ處ハ止ふ尚ハ極至ふ載ハ積累ふ婦ハ陰柔ふて能ふ従ふ者ふ月の望ハ陰の長ふ極至時ふて陽ふ将ふ過ふらんとする也ふ君子征ハ凶ふるべしと下ふ乾と上ふて物ふ多く畜止ふれハ夫々ふ私ふ以ふて公ふ

兌下乾上

兌下
乾上

虎尾と履人を哩不事

初九い素う履往へ咎无

九二い道て履坦々幽人の貞吉

礼儀ハ人の履しものそて事の肝要う

履虎尾不咥人亨

履ハ卦名ニて履ハ踏ム義ニて履ハ卦主の三爻中五爻の剛ニて人々恐て抱て祀て守ルそ故ニ履虎尾と三ムづでゝ其の難ても咥不咥ニ関ハらず亨ル

初九素履往无咎

素ハ質ニて飾ラぬ事ニて身の今限ニて守て心ニつけ有ていつ之ふるまひも質朴ニて人ニ交ルニ飾ラぬ事ニて往へ咎无ニ

九二履道坦々幽人貞吉

道ハ人の履ム場所ニて上ニ九五の剛ニて人々恐て抱て祀て守ルそ故ニ履虎尾と三ムづでゝ其の難ても咥不咥ニ関ハらず亨ル

六三眇能視跛能履々虎尾咥人凶武人為于大君

眇ハ目の小ニて物ニ付て天命ニ仕ルの理ニ明ニて負ルこと無ク跛ハ足の小ニて震動を恐ル時ハ吉ニて履ム時ハ凶ニ成ル

九四履虎尾愬々終吉

愬ハ恐ル義ニて心ニ震動を発明ニて陽賢の上ニ居ルこと欲ルこと無ク柔弱不明ニて陽剛の中ニ迫ル時ハ虎尾と履ム事ニ成ル

九五夬履貞厲

夬ハ決ニて陽賢の位ニ居ルこと然ニ其の側ニ迫ル陰柔の君の意ニ順ニ君の意ニ改ム事ニ決断ニて正ニ履ム時ハ厲ニ成ル

上九視履考祥其旋元吉

考ハ成ニて祥ハ善ニて旋ハ還ニて元ハ大ニて上ニ九五の剛ニて人々恐て抱て祀て守ルそ故ニ履虎尾と三ムづでゝ其の難ても咥不咥ニ関ハらず亨ル

負其所屬

上九履而視祥考其旋元吉

乾下坤上

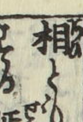
視履考祥其旋元吉

上九も又道を履行てのことなれども又事を履行ても德ある人となりて人ゝ皆己と舍て人ゝ古語をもいふ物者甚者のごとく凶夫の話をも用て驕傲こゝろなく明君ゝ我ゝ君ゝそしりて離明の才智ふかくして我言小違背ところあれば己が心とてもかへるこゝろなし○上九。

履行所と視しとく人の過失を見て禍福の祥兆を考察こゝろ既ふ德と成就ところふいくてを身の周旋ぞ又君ふ周旋こゝろむる時ゝ吉利

元吉

上九も又道を履行ことの左ゝも未ふあるを



乾下坤上

乾ハ天ふーそ上ふあり坤ハ地ふーて下ふあるべきこゝろ天ふ形ハ地乃陰気外て上ふまじくいんようの和合こゝろ天下泰平こゝろ以

泰小往大來吉亨

卦象ふ陰爻上ふありて泰の卦と名付こゝろ

陽爻下ふあることの賢人有德の人ゝ内卦の下ふあるの小人ゝ不德のごとし

消尽ハ外卦の三陰と内ふ来長生こゝろ上ふあるこの八外へ去

泰小往大來吉亨

卦象ふ陰爻上ふありて泰の卦と名付こゝろ

陽爻下ふあることの賢人有德の人ゝ内卦の下ふあるの小人ゝ不德のごとし

消尽ハ外卦の三陰と内ふ来長生こゝろ上ふあるこの八外へ去子ゝ此と名付ふ小人ゝ内卦の三陽と外へ大人君子ゝ此と名付ふ君子時と得て一彙ふうり

泰平萬吏吉こゝろ

彙征吉

茅の根ふつゞきて一本抜ハ皆連こゝろの一根と抜ぬけバ衆の根ふ様ふ抜こゝろ君子時と得て一彙ふうり

拔茅茹以其彙征吉

初九茅と抜て茹こゝろ其彙と以ゆき征バ吉こゝろ

包荒用馮河不遐遺朋亡得尚于中

九二荒と包て馮

河を用ゐ遐遺せず明亡を中行手高きを得る

九三平にして陂る無むうして往く艱貞を以てすれば咎无し孚有て光く其の福を食ふ

行　泰平の出ゐ土地うんぐうり蕊斎まで仁徳うまねく色まうして堵といふ〳〵過〳〵てゆれてこゝもと世の中かやうる時ハ安堵といふ〳〵過〳〵て又風俗ぐるふ及ぶ〳〵この時ハ志ゝと勇義といぐ〳〵て惰弱といまゝめ心てゆるめび身操と平て世と治べうして有此勇剛を用ゆるふたよ●二爻ハ変と離うの離の明徳遐ふ拠ふいと古語ふ馮河と河て馮渉〳〵虎と暴ふいと有此勇剛ふ遺てこゝもと〳〵●明ハ明黨徒黨ふ〳〵てこゝろと組〳〵て一所ふうる〳〵君子ハ中正てまりて五の柔〳〵の君とたゝもと中正の躬とれ困て泰平といふ〳〵の心亡〳〵私意うて尚厉て泰平のはかりうてたゝけ必意ふ〳〵の心ハ中正の躬行てたゝもと〳〵ふ遐ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵

師を用ふるに勿れ邑自命を告ふ吝

坤下　乾上

否之人不匿　君子の貞に利せず大往小來

初六茅を抜て茹

復于隍勿用師自邑告命貞吝

艮の象坤土の平地とする○邑は大夫の今高も坤土の身とする君の威も振ひて政事の告命大夫より出るの意あり○隍は城のめぐりとぞ堀ひて城のめぐりとする時は艱吝の象あり

坤下　乾上

否之匪人不利君子貞大往小來

否は塞ふさがるの名付○和合おして人の道を匪とす此時君子変じ易の履のごとく心得ぬべし一を負て應変の術あれば大に利あり君子往ぬれば小人來のごとくなれり

初六拔

其彙を以ひて貞吉

六二包承を小人に吉大人に否して亨る

第茹。以其彙貞吉亨

否の時節なる由小人と徒ぶべし○彙は類なり○茹は草の名○心と得てそ守るべきなり○心得ずして動変ずる時は吉○泰の安おいて裏み泰の貌と○この爻は艮の處居の道に負て動変ずる時は吉○泰

大人否亨

世の否塞とふさがる大君の否の時節なる由小人と徒ぶべし○彙は類なり○茹は草の名○心と得てそ守るべきなり○心得ずして動変ずる時は吉○泰の安おいて裏み泰の貌と○この爻は艮の處居の道に負て動変ずる時は吉○泰

六二。包承。小人吉。

爻の正の時は中正と守る小人の徒輩の口多く小人に何爻とも上つるの命と包承る時は吉○身のうへ大人に撰行と剛せんと吉○剛せんとて身の危倹あるべし○應変ともなりて剛と柔とを変ともなりて事をなすべし○剛とは変坎の陽爻をいふ○剛とは変坎の陽爻をいふ○一説に包承を阿順つ

六三羞を包

九四命有るも咎无し
疇祉を離る

九五否を休す大人
は吉にして其亡
ん亡んとして苞桑
于繫

羞

六三は位中に在て正しからず・又一說に羞を包むは犬の象あり又婦の象ありて包むと讀む・この爻は君子は否しみ小人は吉し

○六三包

有命无咎疇離祉

九四は否も既に半を過んとしこの爻巽の象ありて順ふ故に命を下すにこゝを以てす・一說に四は互體に艮ありて艮は手なり手を以て物を持つの象あり・又艮は門闕の象ありて門闕は出入の處なり・又艮は止まるの義あり・又艮は小石の象ありて小石は道路に多し・又艮は山徑の路なり・又艮は少男の象ありて少男は未だ妻を娶らず・又艮は黔喙の象ありて黔喙は鳥獸の口なり・又艮は果蓏の象ありて果蓏は草木の實なり・又艮は閽寺の象ありて閽寺は門を守るの人なり・又艮は指の象ありて指は手の末なり・又艮は鼻の象ありて鼻は面の中に在り・又艮は虎の象ありて虎は山に居る・又艮は狐の象ありて狐は山に穴す・又艮は鼠の象ありて鼠は穴に居る・又艮は黔の象ありて黔は黑なり・又艮は堅木の象ありて堅木は山に生ず・又艮は黃の象ありて黃は土の色なり・又艮は小人の道ありて小人は利を貪る

義こたとへば小人の徒黨をつのり私己の利欲心をもつもの
ごとく家内のものくらゐ有ゐもの〳〵きうり主ゐうるゆゑ
今野の字を時ハ家をもてつゝむ●右私己ゐる〳〵野ゐ手ゐる支ハ事ざるゆゑ
ゐう●天下の人と心をおなじくして正中をうるゆゑ時を
何ごのむつゝ〳〵と心をおなじくして大川を渉るに艱
難苦労ゐるおたとへ支をもつて正負をうるゆゑ
離明の二爻賢臣内ゐありて乾の健ゐる五爻の君子ゐ相
應だて且正負と執ゐ支細ゐ〳〵義ゐ
支ゐゆゑ

无咎

二三四五八邪正ともにくゐ〳〵おゐ
係應だる心ゐ又偏私ゐ同ゐる思ゐ
初ゐより咎ゐ

初九同人于門

門内ゐ手
家の外のことゐ

六二同人于宗

内外の殺の乾男ゐうゐて一陰と求ゐ
但し一男の女と求ゐハ元ゐうその常ゐ
今六二の陰も離明ゐて変じて乾男のごくに已ゐう
もつぐ偶と求ゐを正應の宗ゐ手ゐて吝ゐ

九三伏戎于莽升其高陵三歳

九三ハ不中ニ二と此ニこゝも正應ゐ
不興ニ二と同ゐくゐん

戎兵ゐて莽中ゐ
てうゐい望つのゐ離
といへども兵戎と発
●そむ〳〵ゐゐ震ゐて
いろゐう●此爻陽と以
ゐうも中ゐうゐん強暴ゐる人ゐ

興ゐ

●兵戎とゐ離
ゐて互卦ゐ艮
ゐて高陵ゐゐ
の位ゐ居ゐ

九四乗其墉弗克攻吉

四も又已の分限ゐてゐえまじ
みだる正應の五ゐ又此ゐん墉ゐ乗ゐこうゐい見ゐう
ゐゐとへどもまつゐ
さゐう巽順ゐて攻
して強莫ゐるゐ

ハ又此ゐ墉ゐ乗ゐ攻克ゐ不克ゐと
見ゐう攻戦ゐの道ゐうぬとゐて意得
止ゐまるとゐつのゐて吉利ゐる

九五其嚬ゐ乗る攻こ克弗吉ゐう

五爻の陽ゐてゐえゐ宗と見て二爻ハゐうて五ゐ私意ゐる
と見ゐ吝ゐうとぞて不可ゐう五爻と衆宗ゐうゐん

九三伏戎于莽升其高陵三歳不興

初九同人于門无咎

六二同人于宗吝

九五同人先ㇾ號咷而後笑大師克而相遇

上九同人于郊无ㇾ悔

乾下離上

同人先號咷而後笑大師克相遇 九五本二

●爰至ㇾ離明の主たるを以て心とす故に戒兵ハ離に取て吉利とすること●戒兵ハ離と正應するゆゑ三四の陽ㇾ乙ㇾ丙の乘て攻るゆゑ仍て戒兵を發して大師と以て克とするなり●先ハ号咷して後ニ笑ひて二爻の離と互ひに相見て笑ふ●離ハ日なり日ハ明なり●離ハ四五上にて互ひに相見て笑ふ●三四五にて互體離なり●離ハ火なり火ハ變離の象あり離と明目と九五の兌口とを以て言ふ●離ハ日なり日ハ天なり●離ハ南なり又離ハ南の天乃中央なり●日光南ㇾ中するを以て言ふ

九同人于郊无悔

三四のごとく爭競して得るより元より悔べきことなし

乾下離上

上九ハ位外にして郊の象あり●郊の外と二の同人ㇾ大ㇾ乙ㇾ丙の四ㇾ陽ㇾ乙ㇾ丙の乘ㇾ陽ㇾ乙ㇾ丙の乘ㇾ陽ㇾ乙ㇾ丙の乘

九三公用亨于天子小人弗克

九四匪其彭无咎

六五厥孚交如威如吉

も又身に重任を受けて國家を治る間て大事とつゝしみ戒めるのと大車は載るぶ〳〵まてゝも德その任ふ〳〵が如し往て咎なし

○九三公用亨于天子。小人弗克

上卦の離ハ天子南面して德天下を照し下卦の乾の三爻ハ臣の象ニて此爻て諸侯ニ象ど

克上卦の離ハ天子カ尽て天子の政治をよくつとめ忠を用て天子に享献ることの〳〵四海の内ハ天子の有ものなれハ克つゝしんて自專ることの〳〵私己の心なくして公大とゝのふ時ハ吉之小人ハ富貴で私己と心なくして自專ることの〳〵私己の心なくして公大とゝのふ時ハ吉之小人ハ富貴で弗克ゝ

○九四匪其彭无咎　天下太平をぐくの時とゝのふ

君の威光と盛彭とゝのふる身なれハ不吉ゝ其彭ゝる心匪時ハ身の咎ゝなる時ハ不吉ゝ其彭ゝる心匪時ハ身の咎ゝなるゝ

○六五厥孚交如威如吉　離卦の象ハ无我ニして内虚と心なるゝ

まゝ中正ゝ大有の時ゝて中とゝのふゝ

厥孚交如威如吉

君の威光と盛彭とゝのふる身なれハ不吉ゝ其彭ゝる心匪時ハ身の咎ゝなる時ハ不吉ゝ其彭ゝる心匪時ハ身の咎ゝなるゝ

○六五厥孚交如威如吉　離卦の象ハ无我ニして内虚と心なるゝ

まゝ中正ゝ大有の時ゝて中とゝのふゝ

ふゝて柔德文化あるゝ下の四爻の群賢きゝ従ふゝの交離明の德ニて柔小の君ゝも学ひて下ゝ交

時ハ下のゝ厳重ゝるゝ君ゝの威ゝ

臨ゝ吉ゝ

○上九自天祐之吉无不利　この爻ハ

居ゝ至極の明德位ニ離を震て充ゝ欠の戒慎と克ゝこゝろそのゝ

以て天の祐ゝうゝ

の交変ゝ福利吉德ゝ

☳☶　艮下　艮の卦ニ下ゝて地の卦ニ上ふゝ

坤上　艮ハ山ゝ坤ハ地ゝ

謙亨君子有終　この卦の象ハ艮の山の高ゝ

以て地の卑ゝ

卑と以て卑ゝ退ゝと謙退ゝ高ゝ尊上ぶ

ふ光ゝりそゝ

て喩ゝゆゝことのゝ德有君子ハ大ゝ富ゝ有ゝ身ゝさ

げて心ニ謙もつぶゆ〳〵ふ終ニ鉦有ゝふゝことのゝふ大有の次

上九天自之祐て吉ふゝ利せ不ゝる无

艮下坤上

謙ハ亨る君子終有

初六謙々君子用渉大川吉

象曰謙々君子卑以自牧也

六二鳴謙貞吉

象曰鳴謙貞吉中心得也

九三勞謙君子有終吉

象曰勞謙君子萬民服也

六四无不利撝謙

象曰无不利撝謙不違則也

六五不富以其鄰利用侵伐无不利

象曰利用侵伐征不服也

上六鳴謙利用行師征邑國

象曰鳴謙志未得也可用行師征邑國也

經典釋文　周易卷之二

坤下震上　豫

豫利建侯行師

周易卷之二

坤下　震上

豫

豫ハ侯ヲ建テ師ヲ行ル吉ナリ

卦ノ謙ノ卦アリ（）初六謙々君子用渉大川吉

以テ卑ク身ヲ牧ル元ヨリ謙ノ徳アルヨリ又其ノ下ホドロ初爻ニアル由（）謙々トシテイヘル誰人ゾヤ君子ニテアリサウナモノヤ衆多ノ人ノ帰服スル力ヲ用ルゾ大川ヲ渉ルガ如ク遂ルベシトナリ（）六二鳴謙貞吉

艮山ト以テ徳ノ高ク尊キ坤地ヨリモ尊ク内ニ充満ル徳ト以ク坤地ヨリモ尊ク内ニ充満ル徳ト以ク謙ノ徳ヲ聲ニ出シテ鳴ト云ヒ（）九三勞謙君子有終吉

二ノ三ノ爻ノ主トシテ上六君ノ為ニ任ゼラレ下ハ衆ノ人ノ心ヲ服従ノ徳アルヨリ君子ノ徳アリテ章ヲ終ルベシ（）六四无不利撝謙

坤ノ卦ノ徳ヲ含テ意ヲ以テ謙ノ徳ヲ発揮ス由（）撝謙ト云ヒ（）六五不富以其鄰利用侵伐无不利

六四ヨリ六三ノ主卦ト君トノ間ニ有テ謙徳ヲ施ス故ニ吉利ナリ（）上六鳴謙利用行師征邑國

六五ノ君ヲ輔ケ撝布ヲ以テ萬事ヲ治ムル故ニ吉利ナリ（）六五不富以其鄰利用侵伐无不利

此ノ鄰ト云ヒ身ヲ謙ルヨリ富貴ヲ以テ人ヲ使ヒ武威ヲ以テ侵伐スルトモ悪人ヲシテ文武剛柔ノ教ヲ以テ化スルヲ以テ元ヨリ天下ノ帰服スル所ナリ（）上六鳴謙利用行師征邑國

象ノ艮ノ高山ノ高キ他ニモ志ヲ得ヌ謙徳ヲ以テ道ヲ行ヒ鳴ル之謙徳ヲ以テ邑國ヲ治ル時ハ師ヲ行ヒ征伐ニ代ヲ以テ心ヲ服シテ悪ヲ改ムル心ヲ以テ悪人ヲ化スルヲ以テ元ヨリ武威ヲ以テ征伐スルニ及ハズ

豫ハ侯ヲ建テ師ヲ行ルニ吉ナリ

坤下震上ノ卦ノ震ノ陽爻ヲ坤ノ順従ノ上ヲ以テ下ヲ治ムルノ義ニシテ天下大平ニシテ國土安穏ナル世ト豫楽ノ時トヲ取リテ名ヲ豫ト云ヒ

と行ふ利あり

初六鳴豫凶

時に豫楽ふなごうれて心ゆるるりの國ゐ侯どその人と建かひて武道とみづく軍法をなく〳〵師と行く〳〵威とあることきゝて全く大平いく冬〳〵〇

初六鳴豫凶 九四卦のまうり

ほぐくことうりとびぬ初ふ應どたく〳〵きこふしく〳〵小人時明さいとろく〳〵摧かの家ゐ出へとうふしく〳〵吾今限とうことをて悦豫かるる心ゐ

六二介于石不終日貞吉 六二陰爻

陰位うるゆへ中正うり陰柔もれどもその剛と石うりも介あり三四の離明にろるゆえ不正うるばく〳〵の終日とろることうるゆへ貞正〇

〇六二介于石不終日貞吉

吉なり

六三盱豫悔遲有悔 三陽位

陰柔の身みてその居位とうりたがく主卦ゐ近づれ隣がゐふりゐ盱比〳〵むとをつうり凡く吉つをめ豫乎とうことを悔とまく〳〵見るあれ上一偏ゐ〳〵見る〳〵心とい中ふの豫よろこぶ時ハ又悔と生ひよろこぶ時ハ又悔と生ひるの心遅とうさいまく〳〵

〇六三盱豫悔遲有悔

〇九四由豫大有得勿疑朋

盍簪 九四主卦の位ハ元より大臣うりて人〳〵よろこぶゆへ大ふ人の帰服と得し有とく〳〵君ゐ疑忌とうことうること勿ればく〳〵集ぞとうり

〇六五貞疾恒不死 六五ハ生質柔弱〳〵て君の位ふにうるく〳〵陽位

しそ陰爻うるゆへ権威うく〳〵心貞固〳〵て氣疾く〳〵三四五の坎の意ふそいへろるなり又四の剛強つくほいふ逼くるその身死ぬるとつそども生活をのうしももく〳〵

有渝无咎 上六の爻ハ陰ふて上ふ有ゆへありさうのよろこぶそれゆへよろこぶの義ふ寓して事成く〳〵渝とうり変ぢる時ハ坤下離上ふて震ハ長男うり兌ハ少女うり

〇上六冥豫成

時ハ坤下離上ふて震ハ長男うり兌ハ少女うり変ぢる時ハ言うり予細ハ上六変ぢる晋の卦となる日ふ善ふ渝とうことの義ふ寓して晋の義なり渝とうことの咎なきを得しと有疑ことく勿ればく明盍簪ハ

六五貞疾恒不死

上六冥豫成渝とうこと有咎无し

震下兌上

隨八元亨る貞
ふ利しくて咎无し

初九官渝を有て
貞吉之門に出て
交る功有

六二小子ふ係り
丈夫を失なふ

六三丈夫ふ係て小
子を失う隨ひて
求得て有貞
ふ宜ふ利を

九四隨ひて獲ること
有り貞しきに凶
孚有て道ふ明
在て以て明らかなるを
可の咎なし

九五嘉子孚なり
吉

隨元亨利貞无咎

人ふ隨從ことの
道ハ貞一ふ正しくして
よろこびて長男ふ
卦るゆへ隨ふ

初九官有渝貞吉出門交有功　初九ハ震動の主宰なる
ゆへそのいまだ
卦ふ
ハ何ぞもたゞしくして
ハ何ぞもたゞしくして
ハ何ぞもたゞしくして

上六之乏拘係之乃從維之王用亨于
西山

巽下艮上

二の中賢ふまるとへどもうつうつ滿假うりとびくして
二ふ任とるがゆえふ吉うり嘉をまるめと注す

○上六拘係之乃從維之王用亨于西山　周の祖の大王の事實この上爻の義ふうつかせて
の都と西山へうきとうりくくく

九二母之蠱ヲ幹ス可ラ貞ナラ不

九三父の蠱ヲ幹ス小シク悔ヒ有リ大ナル咎无シ

六四父之蠱ヲ裕ニス往ケバ吝シ

見ル

父の業となりたるを幹し能く考成せるの義なり考も父なり生と父と兼ねたり子として父の故を考るは有子として家となりたる子たるべき德なり

蠱とは事のすたれたるの初となりて六爻を以て言ふ心を危懼と戒慎とを以て終ヲ吉なるものぞ

○九二幹母之蠱不可貞

六五と母と二陰母の蠱と幹ずるなり

九二剛ヲ以て正中なり母ヲ幹ずるの心得にて女儀ヲ柔和なるを以て道とすべし但し正直ヲ以て道とすべし

剛ヲ過ぐれば克と果斷ヲ少シく変用べし

用ひて能ヲ蠱ヲ治むるの貞ナラ

无大咎

一宜しく心ヲ安くもつことにあり

○九三幹父之蠱小有悔

初二三の坎ニ一陽ヲ以て坎ヲ蠱の賊と幹ヲ母のくハ才智の剛ヲ過ると但し一事と雖ども過ヲ悔ヒ有ルの象なり

四裕父之蠱往見吝

蠱の中ヲ過るの時ヲ以て柔惰寛裕と用るの咎ぞ

六五父之蠱ヲ幹ス用ヰ譽ヲ

上九王侯ヲ事ニ不ル其事ヲ高尚ス

兌下艮上

○六五幹父之蠱用譽

往て吝剛ヲ柔懦ヲ以て救ヲ妙ナリ

○上九不事王侯高尚其事

艮ヲ中爻良ヲ柔德と以て位ヲ良止ヲ創て業と立ヲ其ヲ力ヲ不ル

まことに父の業ヲまもり九二の賢臣ヲ委任ヲ風儀と布ヲ譽と用ヲ

蠱血用譽

兌下坤上

䷒

坤ヲ地と兌ヲ澤と臨ヲ大の字の義ヲ以て二陽の長ヲ

と臨の卦とて二陽来復ヲ陰きはまるの象なり

臨元亨利貞至于八月有凶　陽氣の長ずると上の卦德とより臨と云ふ二陽爻さえと下の諸臣庶民を臨ますと云ふ陽と剛とを以て利貞うるべきなれども八月子丑と陰の長ずる時ハその衰弱のきばにて元亨

坤下巽上

觀盥而薦不孚有顒若

初六童觀小人咎无君子吝

六二闚觀女貞

坤下巽上

觀の字もと又下より上て見るの義なれども注の如く上より下を觀と云又下五君に仰下の多の陰柔の有て萬民の上となれば觀と云上の中正の坤のごとく祀酒と地の奠供の牲とを薦るの時手を盥きよめ早天の霊神明と祭の時顒若と神明と交通の敬と第一なれども先祖と思ふの孝道なり

君子吝

初六陰柔にして應なし童子の見物のごとく長久に觀るの象なり君子の所作にあらず

○初六童觀小人无咎

六四も陰柔なれども五の中正なまじくに觀るの象なり

○六二闚觀利女貞

坤の中正を互坤と

の貞に利す

○六三觀我生進退

六三我生を觀て進退を

○六四觀國之光利用賓于王

六四國の光を觀て王に賓たるの利を

○九五觀我生君子无咎

九五我生を觀る君子なれば咎无

合て坤の純徳なれども處女の柔順謹慎なるが觀の卦そして時にしたがひ内より闚るの象なり

生進退

全く負女の丈夫の身におもねるの象なり

○六四觀國之光利用賓于王

明君の國家を治めて徳の光るを六四君子もろ〳〵その威徳に帰服して吉利なり

○九五觀我生君子无咎

國主の吾天朝へ来るが身の生立てその国の無事なるが天朝へ時々来朝して容儀を觀べし但し君子の徳あれば咎なし

○この爻変ずる時は坤下巽上剥の卦なり剥の爻は前よ

見（あら）はる○上九（じやうきう）觀（くわん）其（その）生（せい）君子（くんし）无咎（とがなし）この爻（かう）も又（また）卦（くわ）徳（とく）の賢（けん）才（さい）みて位（くらゐ）の外（ほか）より操（とり）行（おこなひ）と変（かは）ざるその人々（ひとびと）の生立（うまれたち）と観（み）よ卦（くわ）徳（とく）の順（じゆん）の形（かた）ち三（さん）中（ちう）ひしけて上（うへ）と下（した）とへだゝりこの卦（くわ）の上（うへ）六（りく）の災（わざはひ）山（やま）と合（あは）せ変（かは）ざるを坎（かん）と変（へん）ずるを咎（とが）なしと云（いふ）

震下離上

噬嗑（ぜいかふ）亨（とほる）獄（うつたへ）を用（もち）ゆるに利（よろし）

初九（しよきう）校（かせ）て屨（くつ）で趾（あしさき）を滅（おほ）ふ咎（とが）无（なし）

六二（りくじ）膚（はだへ）と噬（かみ）で鼻（はな）を滅（おほ）ふ咎（とが）无（なし）

六三（りくさん）の腊肉（せきにく）を噬（かみ）で毒（どく）に遇（あふ）り小（すこし）吝（なやむ）咎（とが）无（なし）

經典、徐市

周易卷之二　十四

震下離上

噬嗑（ぜいかふ）亨（とほる）獄（うつたへ）を用（もち）ゆるに利（よろし）す○初九（しよきう）校（かせ）て屨（くつ）で趾（あしさき）を滅（おほ）ふ

なく理非（りひ）を明徳（めいとく）と以（もつ）て威（い）を震（ふるひ）て雷電（らいでん）と以（もつ）て文明（ぶんめい）を離（はなれ）て日（ひ）と以（もつ）て獄（うつたへ）を折（さだ）むるの義（ぎ）凡（すべ）て弁古

噬嗑亨利用獄　獄ハ口支訴訟刑懲の支

初九校滅趾无咎　口ありて言語と噬嗑と又此卦ニそひにくびとよし又ニ三形ちの

噬嗑亨利用獄

震下艮上ハ頤の卦ニ似れども頤ハ口中の物を噬嗑ハ口中の物を噬嗑と又此卦ニそひにくびとよし又ニ三形ちの

初九校滅趾

震下離上

噬嗑亨利用獄

初九校滅趾

震下離上

噬嗑亨利用獄

初九校滅趾

震下離上

噬嗑亨利用獄

九四乾胏と噬を金矢と得る艱貞を利す

六五乾肉と噬で黄金と得る貞を厲を咎无

と握言の臣下の今この三爻下の上をも本より其の位を明かにみるべし三三は離明にして三遇と

きこの故みな乾胏と乾肉と噬ありて腊肉の毒にあたるが六柔の徳と用ゐ矢は正直なるをよしとするきみたち三四五の坎の象にして事のむ訟獄のごとく直みて操行刪と第一なれども坎険の艱

なり金はかたくきよきを又四五六の離明の才にて公変

三四五は坎の象にして君と臣と守と利といましめの象あり今この離明の

重なるを以て人々風服せざるはなし乾肉は色あるもの黄は中央の色

君の象にして金は上と同意なり但し安乎の如く火の山より映出されば艸木かれて文貴が由て名づけられ

大凶なり仍て心といましめ厉危とを天の咎とおぼしめしまでの

と答ふ

○上九。何校滅耳凶

上爻は獄となることの詞なり校とは首をせむる中と過て往ては耳と滅亡とて

徳と変ずるを見る

離下艮上

艮は山の離は火なり火の山より生ずれば艸木の盛なるの象あり今この離明の

盆盍の卦は法ありてこの卦と倒反あり貴の卦は礼文

法ありて倒反あり

賁其趾。舎車而徒

賁は礼文にして細小となり舎は捨て車は往所と事て利吉となり

○初九。賁其趾。舎車而徒

君子刪徳にして下位にあるの比

離下艮上

賁は亨小しく往攸有り利を

初九其趾と賁る

車と舍て而して徒ようんぬ

六二其須と貴る

九三貴如濡如永貞吉なり

六四貴如皤如白馬翰如匪寇婚媾

六五丘園に貴る束帛戔戔として吝終あり吉

上九白貴にして咎无し

賁

賁は亨る小しく利ろし攸往ことなし

○彖に曰く賁は亨るとは柔上りて剛を文る故に亨る分剛を分て上の柔に文る故に小しく利ろしと曰ふ天文なり文明にして以て止る人文なり天文を觀て以て時の變を察る天下を化成するの道なり

○象に曰く山の下に火有るは賁なり君子以て庶政を明にして敢て獄を折ること無し

○初九賁其趾舍車而徒

○象に曰く舍車而徒は義乘らざるなり

○六二賁其須

○象に曰く賁其須は與上興るなり

○九三賁如濡如永貞吉

○象に曰く永貞吉は終に之を陵ること莫きなり

○六四賁如皤如白馬翰如匪寇婚媾

○象に曰く六四の疑は疑ふこと有ること莫きなり

○六五賁于丘園束帛戔戔吝終吉

○象に曰く六五の吉は泉石に喜ぶなり

○上九白賁无咎

○象に曰く白賁无咎は上得志なり

剝

剝は不利ろし攸往ことなし

○彖に曰く剝は剝なり柔剛を變ずるなり不利ろし攸往とは小人長ずるなり順にして以て止る觀象なり君子尚消息盈虛天行なり

○象に曰く山地に附て剝なり上以て下を厚して安宅なり

○初六剝牀以足蔑貞凶

○象に曰く以足蔑貞は以て滅下ること无きなり

○六二剝牀以辨蔑貞凶

○象に曰く剝牀以辨は未だ上下を與ること无きなり

○六三剝之无咎

○象に曰く剝之无咎は失上下なり

○六四剝牀以膚凶

○象に曰く剝牀以膚は切近災なり

○六五貫魚以宮人寵无不利

○象に曰く以宮人寵は終に尤ること无きなり

○上九碩果不食君子得輿小人剝廬

○象に曰く君子得輿は民載ること也小人剝廬は終に用ること不可なり

復

復は亨る出入疾ること无し朋來ること无し其道を反復して七日にして來復る利ろし攸往ことなし

○彖に曰く復は亨るとは剛反ること也動て以て順行す是を以て出入疾ること无し朋來ること无しとは剛來て而して其道を反復して七日にして來復るとは天行なり利ろし攸往とは剛長ずるなり復て其天地の心を見るか

○象に曰く雷地中に在るは復なり先王以て日至に關を閉ざし商旅行かず后以て方を省ず

○初九不遠復无祇悔元吉

○象に曰く不遠之復は以て脩身ること也

○六二休復吉

○象に曰く休復之吉は以て下仁ること也

○六三頻復厲无咎

○象に曰く頻復之厲は義无咎ること也

○六四中行獨復

○象に曰く中行獨復は以て道に從ること也

○六五敦復无悔

○象に曰く敦復无悔は中以て自考ること也

○上六迷復凶其道を反ること以て君に至ること有ること十年なり

○象に曰く迷復之凶は反君道ること也

无妄

无妄は元亨る利ろし貞し其正ならざれば眚有り利ろし攸往ことなし

○彖に曰く无妄は剛來て而して内に主と爲る動て而して健なり剛中にして而して應ず大に亨て以て正なり天の命なり其正ならざれば往て何の之く所ぞ天の命ぜざる不可なり

○象に曰く天下雷行て物皆无妄なり先王以て茂て對時して育萬物す

○初九无妄往吉

○象に曰く无妄之往は得志ること也

○六二不耕穫不菑畬則利ろし攸往

○象に曰く不耕穫之利ろしは未だ富ざるなり

○六三无妄之災或繫之牛行人之得邑人之災

○象に曰く行人之得邑人之災なり

○九四可貞无咎

○象に曰く可貞无咎は固有ること也

○九五无妄之疾勿藥有喜

○象に曰く无妄之藥は不可嘗ること也

○上九无妄行有眚无攸利

○象に曰く无妄之行窮ること也

大畜

大畜は利ろし貞し家食吉ならず大川を涉る利ろし

○彖に曰く大畜は剛健篤實輝光日に其德を新にす剛上りて而して尚賢す能く健を止む大正なり天を不家食吉ならずと養ふ也賢を養ふ以て大川を涉る利ろしと天に應ず也

○象に曰く天山中に在るは大畜なり君子以て多く前言往行を識して以て其德を畜ふ

○初九有厲利ろし已

○象に曰く有厲利ろし已は不犯災ること也

○九二輿說輹

○象に曰く輿說輹は中无尤ること也

○九三良馬逐利ろし艱貞なれば曰に閑輿衛ふ利ろし有攸往ことなし

○象に曰く利ろし有攸往は上合志ること也

○六四童牛之牿元吉

○象に曰く六四の元吉は有喜ること也

○六五豶豕之牙吉

○象に曰く六五の吉は有慶ること也

○上九何天之衢亨る

○象に曰く何天之衢は道大行ること也

頤

頤は貞し吉なり頤を觀て而して自ら口實を求む

○彖に曰く頤は貞し吉なりとは養て正なれば吉なり頤を觀るとは其養ふ所を觀る也自ら口實を求むとは其自ら養ふ所を觀る也天地萬物の養ふ所を觀る聖人賢を養ふ以て及萬民に頤の時大なる哉

○象に曰く山下雷有るは頤なり君子以て言を愼み飲食を節す

○初九舍爾靈觀我朵頤凶

○象に曰く觀我朵頤は亦以て貴ること不足ること也

○六二顚頤拂經于丘頤征凶

○象に曰く六二の征凶は行失類ること也

○六三拂頤貞凶十年用ること勿れ利ろし攸往ことなし

○象に曰く十年勿用は道大悖ること也

○六四顚頤吉虎視眈眈其欲逐逐无咎

○象に曰く顚頤之吉は上施光ること也

○六五拂經居貞吉不可涉大川

○象に曰く居貞之吉は順以て從ること也

○上九由頤厲吉利ろし涉大川

○象に曰く由頤厲吉は大有慶ること也

大過

大過は棟橈む利ろし有攸往ことなし亨る

○彖に曰く大過は大なる者過ること也棟橈むとは本末弱ること也剛過て而して中にし巽て而して說ぶ獨立して懼れず遯世して悶ること无し是を唯義を行ふ者のみ能くせんや大過の時の大なる哉

○象に曰く澤木を滅るは大過なり君子以て獨立して懼れず遯世して悶ること无し

○初六藉用白茅无咎

○象に曰く藉用白茅は柔在下ること也

○九二枯楊生稊老夫得其女妻无不利

○象に曰く老夫女妻は過以て相與ること也

○九三棟橈む凶

○象に曰く棟橈むの凶は不可以て有輔ること也

○九四棟隆吉有他吝

○象に曰く棟隆の吉は不橈ること乎下ること也

○九五枯楊生華老婦得其士夫无咎无譽

○象に曰く枯楊生華何可久也老婦士夫亦可醜也

○上六過涉滅頂凶咎无し

○象に曰く過涉之凶は不可咎ること也

坎

習坎は有孚維心亨る行て尚ること有り

○彖に曰く習坎は重險なり水流て而して盈ず險を行て而して其信を失ず維心亨るとは乃ち剛中を以て也行て尚ること有りとは往て功有ること也天險は升ること可からず地險は山川丘陵なり王公以て其國を設け險を以て守と爲る坎の時の用大なる哉

○象に曰く水洊至るは習坎なり君子以て常德を習ひ事を行ふ

○初六習坎入于坎窞凶

○象に曰く習坎入于坎窞は失道ること凶なり

○九二坎有險求小しく得

○象に曰く求小しく得は未だ出中ならざるなり

○六三來之坎坎險且枕入于坎窞勿用

○象に曰く來之坎坎は終に大功无きなり

○六四樽酒簋貳用缶納約自牖終に无咎

○象に曰く樽酒簋貳は剛柔際ること也

○九五坎不盈祇既平无咎

○象に曰く坎不盈は中未だ大ならざるなり

○上六係用徽纆寘于叢棘三歲まで得ず凶

○象に曰く上六の失道は凶三歲なり

離

離は利ろし貞し亨る牝牛を畜ふ吉

○彖に曰く離は麗なり日月天に麗き百穀草木土に麗き重明以て正に麗き乃ち化成天下す柔麗中正を以て故に亨る是を以て牝牛を畜ふ吉なりと也

○象に曰く明兩作るは離なり大人以て明を繼て四方を照す

○初九履錯然敬之无咎

○象に曰く履錯之敬は以て辟咎ること也

○六二黃離元吉

○象に曰く黃離元吉は得中道ること也

○九三日昃之離不鼓缶而歌則大耋之嗟凶

○象に曰く日昃之離は何可久也

○九四突如其來如焚如死如棄如

○象に曰く突如其來如は无所容ること也

○六五出涕沱若戚嗟若吉

○象に曰く六五の吉は離王公也

○上九王用出征有嘉折首獲匪其醜无咎

○象に曰く王用出征は以て正邦ること也

咸

咸は亨る利ろし貞し取ること女を吉

○彖に曰く咸は感なり柔上りて而して剛を應ず說て而して止る男女に下る是を以て亨る利ろし貞し取ること女を吉なりと也天地感て而して萬物化生す聖人人心を感て而して天下和平す其感ずる所を觀て而して天地萬物の情見る

○象に曰く山澤氣を通ずるは咸なり君子以て虛を以て人に受く

○初六咸其拇

○象に曰く咸其拇は志在外ること也

○六二咸其腓凶居吉

○象に曰く雖凶居吉は順不害ること也

○九三咸其股執其隨往吝

○象に曰く咸其股は亦以て居ること不處ること也志在隨ること以て下ること也

○九四貞吉悔亡憧憧往來朋從爾思

○象に曰く貞吉悔亡は未だ感ずること害ざるなり

○九五咸其脢无悔

○象に曰く咸其脢は志末ること也

○上六咸其輔頰舌

○象に曰く咸其輔頰舌は滕口說ること也

恒

恒は亨る无咎利ろし貞し利ろし有攸往ことなし

○彖に曰く恒は久なり剛上りて而して柔を巽ふ雷風相與し巽て而して動く剛柔皆應ず恒なり恒は亨る无咎利ろし貞しとは久して其道を成ること也天地の道は其久して止ること不已ことなり利ろし有攸往とは終れば則ち始ること有ること也日月天を得て而して能く久して照す四時變化して而して能く久して成す聖人其道を久して而して天下化成す其恒なる所を觀て而して天地萬物の情見る

○象に曰く雷風恒なり君子以て立て方を不易ず

○初六浚恒貞凶无攸利

○象に曰く浚恒之凶は始て深ること求ること也

○九二悔亡

○象に曰く九二の悔亡は能く以て中ること久ること也

○九三不恒其德或承之羞貞吝

○象に曰く不恒其德は无所容ること也

○九四田无禽

○象に曰く久非其位安ぞ得て禽ること也

○六五恒其德貞婦人吉夫子凶

○象に曰く婦人貞吉は從一ること以て終ること也夫子制義は從ること婦ること凶なり

○上六振恒凶

○象に曰く振恒在上大无功ること也

遯

遯は亨る小しく利ろし貞し

○彖に曰く遯は亨るとは遯て而して亨る也剛當位して而して應ず時と行ふ也小しく利ろし貞しとは浸而して長ずる也遯の時の義大なる哉

○象に曰く天山下に在るは遯なり君子以て小人を遠ざけ惡を嚴にせず

○初六遯尾厲勿用有攸往ことなし

○象に曰く遯尾之厲は不往ること何ぞ也

○六二執之用黃牛之革莫之勝說

○象に曰く執用黃牛は固志ること也

○九三係遯有疾厲畜臣妾吉

○象に曰く係遯之厲は有疾憊ること也畜臣妾吉は不可大事ること也

○九四好遯君子吉小人否

○象に曰く君子好遯は小人ること否ること也

○九五嘉遯貞吉

○象に曰く嘉遯貞吉は以て正志ること也

○上九肥遯无不利

○象に曰く肥遯无不利は无所疑ること也

大壯

大壯は利ろし貞し

○彖に曰く大壯は大者壯なり剛以て動く故に壯なり大壯利ろし貞しとは大者正なれば則ち天地の情見る

○象に曰く雷天上に在るは大壯なり君子以て禮に非ざれば履ず

○初九壯于趾征凶有孚

○象に曰く壯于趾は其孚窮ること也

○九二貞吉

○象に曰く九二の貞吉は以て中ること也

○九三小人は壯を用ひ君子は罔し貞厲羝羊觸藩羸其角

○象に曰く小人用壯は君子罔し貞は小人ること以て罔ること也

○九四貞吉悔亡藩決て羸ず壯于大輿之輹

○象に曰く藩決不羸は尚往ること也

○六五喪羊于易无悔

○象に曰く喪羊于易は位不當ること也

○上六羝羊觸藩不能退不能遂无攸利艱則吉

○象に曰く不能退不能遂は不詳ること也艱則吉は咎不長ること也

晉

晉は康侯用て馬を錫ること蕃庶にして晝日三接

○彖に曰く晉は進なり明地上に出て順にして以て麗く大に進む是を以て康侯用て馬を錫ること蕃庶にして晝日三接とは柔進て而して上行す

○象に曰く明地上に出るは晉なり君子以て自ら明德を昭かにす

○初六晉如摧如貞吉罔し孚裕无咎

○象に曰く晉如摧如は獨行正ること也裕无咎は未だ受命ざるなり

○六二晉如愁如貞吉受茲介福于其王母

○象に曰く受茲介福は以て中正ること也

○六三衆允悔亡

○象に曰く衆允之志は上行ること也

○九四晉如鼫鼠貞厲

○象に曰く鼫鼠貞厲は位不當ること也

○六五悔亡失得勿恤往吉无不利

○象に曰く失得勿恤は往有慶ること也

○上九晉其角維用伐邑厲吉无咎貞吝

○象に曰く維用伐邑は道未だ光ならざるなり

明夷

明夷は利ろし艱貞なれば

○彖に曰く明入地中するは明夷なり内文明にして而して外柔順なり以て大難を蒙る文王以之なり利ろし艱貞なればとは晦て而して明なり内難にして而して能く其志を正す箕子以之なり

○象に曰く明地中に入るは明夷なり君子以て衆に莅て明を用ひ而して晦を以てす

○初九明夷于飛垂其翼君子は于行三日にして糧を不食ず有攸往ことなし主人有言あり

○象に曰く君子于行は義不食ること也

○六二明夷夷于左股用て拯馬壯吉

○象に曰く六二の吉は順以て則ること也

○九三明夷于南狩其大首を得て疾貞ならず

○象に曰く南狩之志は乃ち大ならざるなり

○六四入于左腹明夷之心を獲て于門庭を出

○象に曰く入于左腹は獲心意ること也

○六五箕子之明夷利ろし貞し

○象に曰く箕子之貞は明不可息ること也

○上六不明晦初は登于天後は入于地

○象に曰く初登于天は照四國ること也後入于地は失則ること也

家人

家人は利ろし女貞し

○彖に曰く家人は女正位内に乎り男正位外に乎り男女正天地の大義なり家人有嚴君ありとは父母之謂なり父父たり子子たり兄兄たり弟弟たり夫夫たり婦婦たり而して家道正し正家而して天下定る

○象に曰く風火より出るは家人なり君子以て言に物有て而して行に恒有り

○初九閑有家悔亡

○象に曰く閑有家は志未だ變ざるなり

○六二无攸遂中饋に在て貞吉

○象に曰く六二の貞吉は順以て巽ること也

○九三家人嗃嗃悔厲吉婦子嘻嘻終に吝

○象に曰く家人嗃嗃は未だ失ざるなり婦子嘻嘻は失家節ること也

○六四富家大吉

○象に曰く富家大吉は順在ること位也

○九五王假て有家を之交ること勿れ吉

○象に曰く王假有家は交相愛ること也

○上九有孚威如終吉

○象に曰く威如之吉は反身之謂ること也

睽

睽は小事吉

○彖に曰く睽は火動て上に炎上し澤動て下に流下す二女同居して而して其志行ず說て而して麗く上行て而して中に應ず是を以て小事吉なりと也天地睽て而して其事同し男女睽て而して其志通ず萬物睽て而して其事類す睽の時の用大なる哉

○象に曰く上火下澤は睽なり君子以て同て而して異

○初九悔亡喪馬勿逐自ら復る惡人を見て以て咎无し

○象に曰く見惡人は以て辟咎ること也

○九二巷に遇ふ主に利ろし无咎

○象に曰く遇主于巷は未だ失道ざるなり

○六三輿曳かれ其牛掣かれ其人天且劓かる无初有終

○象に曰く見輿曳は位不當ること也无初有終は遇剛ること也

○九四睽て孤なり元夫を遇ふ交孚ること厲ありと雖も无咎

○象に曰く交孚无咎は志行ること也

○六五悔亡厥宗噬膚往て何の咎あらん

○象に曰く厥宗噬膚は往て有慶ること也

○上九睽て孤なり豕の塗に負ふを見鬼を一車に載るを先には之を張て弧とし後には之を說て弧とす匪寇婚媾往て雨を遇ふ吉

○象に曰く遇雨之吉は群疑亡ること也

蹇

蹇は利ろし西南に東北に不利ろし大人を見る利ろし貞し吉

○彖に曰く蹇は難なり險以て止る蹇と知て而して止る知の大なる哉蹇は利ろし西南に往て中を得ること也東北に往て道窮ること也利ろし見大人往て功有ること也貞吉以て正邦ること也蹇の時の用大なる哉

○象に曰く山上に水有るは蹇なり君子以て身を反して德を修む

○初六往蹇來譽

○象に曰く往蹇來譽は宜待ること也

○六二王臣蹇蹇匪躬の故

○象に曰く王臣蹇蹇は終に尤ること无きなり

○九三往蹇來反

○象に曰く往蹇來反は内喜之ること也

○六四往蹇來連

○象に曰く往蹇來連は當位實ること也

○九五大蹇朋來

○象に曰く大蹇朋來は以て中節ること也

○上六往蹇來碩吉大人を見る利ろし

○象に曰く往蹇來碩は志在内ること也以て大人ること有ること功也

解

解は利ろし西南に往ことなし其來復ること吉有攸往ことあれば夙にして吉

○彖に曰く解は險以て動く動て而して免る解と大に亨る也利ろし西南に往て衆を得ること也其來復ること吉乃ち中を得ること也有攸往ことあれば夙にして吉往て功有ること也天地解て而して雷雨作る雷雨作て而して百果草木皆甲坼す解の時の大なる哉

○象に曰く雷雨作るは解なり君子以て過を赦し罪を宥む

○初六无咎

○象に曰く剛柔之際義无咎ること也

○九二田に獲て三狐を黃矢を得貞吉

○象に曰く九二貞吉は得中道ること也

○六三負て且乘る致寇至る貞吝

○象に曰く負且乘は亦可醜ること也自ら我致ること戎ること也又誰咎ん

○九四解て而して拇ること其朋至て斯に孚あり

○象に曰く解而拇は未だ當位ざるなり

○六五君子維有て解ること吉小人に有孚ること而して于公に致ること射隼を高墉の上に獲ること之を獲て无不利

○象に曰く君子有解は小人退ること也

○上六公隼を高墉の上に射て之を獲ること无不利

○象に曰く公用射隼は以て解悖ること也

損

損は有孚あれば元吉咎无し貞し可利ろし有攸往ことあれば曷之用ん二簋は可用て享る

○彖に曰く損は下を損て以て上に益す其道上行す損て而して有孚あれば元吉咎无し貞し可利ろし有攸往ことあれば曷之用ん二簋は可用て享るとは二簋は應ず時と偕行す

○象に曰く山下に澤有るは損なり君子以て忿を懲し慾を窒ぐ

○初九已事遄往ば无咎酌て損ること之を

○象に曰く已事遄往は尚合志ること也

○九二貞し利ろし有攸往ことあれば弗損て益す之を

○象に曰く九二利貞は中以て爲ること志ること也

○六三三人行けば則ち一人を損す一人行けば則ち其友を得

○象に曰く一人行は三則ち疑ること也

○六四其疾を損て使遄有ば喜ること无咎

○象に曰く損其疾は亦可喜ること也

○六五或益之十朋之龜違ること克ず元吉

○象に曰く六五元吉は自上祐ること也

○上九弗損て益す之を无咎貞し吉利ろし有攸往ことあれば得臣无家

○象に曰く弗損益之は大得志ること也

益

益は利ろし有攸往ことあれば利ろし涉大川

○彖に曰く益は損上て益下す民の說ぶこと无疆なり自上下ること有て大に光ること也其正中に有慶ありと也利ろし涉大川とは木道乃ち行ること也益は動て而して巽ふ日に進て无疆なり天施地生其益无方なり凡益の道與時偕行す

○象に曰く風雷益なり君子以て善を見て則ち遷り過有て則ち改む

○初九元吉咎无し

○象に曰く元吉无咎は下不厚事ること也

○六二或益之十朋之龜違ること克ず永貞吉王用て帝に享ること吉

○象に曰く或益之は自外來ること也

○六三益之用凶事无咎有孚中行告公用圭

○象に曰く益用凶事は固有ること也

○六四中行告公從ば利ろし用て爲ること依遷ること國を

○象に曰く告公從は以て益志ること也

○九五有孚惠心勿問元吉有孚惠我德

○象に曰く有孚惠心は勿問之矣ること也惠我德は大得志ること也

○上九莫之益ること或之擊ること立心勿恒凶

○象に曰く莫益之は偏辭ること也或擊之は自外來ること也

夬

夬は揚于王庭に孚號有厲告自邑不利ろし即戎利ろし有攸往ことあれば

○彖に曰く夬は決なり剛柔を決ること也健にして而して說ぶ決て而して和す揚于王庭とは柔乘五剛ること也孚號有厲とは其危乃ち光ること也告自邑不利ろし即戎とは所尚乃ち窮ること也利ろし有攸往ことあればとは剛長ずるなり而して乃ち終ること有ること也

○象に曰く澤天上に在るは夬なり君子以て祿を施し下に及ぼす德を居て而して忌む

○初九壯于前趾往て而して不勝咎あり

○象に曰く不勝而往は咎ること也

○九二惕號莫夜有戎勿恤

○象に曰く有戎勿恤は得中道ること也

○九三壯于頄凶君子は夬夬獨行雨に遇ふ若濡ること有て慍ること有り无咎

○象に曰く君子夬夬は終に咎无きなり

○九四臀无膚其行次且牽かれ羊悔亡聞言不信

○象に曰く其行次且は位不當ること也聞言不信は聰不明ること也

○九五莧陸を夬夬中行咎无し

○象に曰く中行无咎は中未だ光ならざるなり

○上六无號終に有凶

○象に曰く无號之凶は終に不可長ること也

姤

姤は女壯なり女を取ること勿れ

○彖に曰く姤は遇なり柔剛に遇ふ也女を取ること勿れとは不可與長ること也天地相遇て品物咸章す剛中正に遇ふ天下大に行ること也姤の時の義大なる哉

○象に曰く天下風行るは姤なり后以て命を施し四方に誥す

○初六繫于金柅貞吉往ば凶あり羸豕孚蹢躅

○象に曰く繫于金柅は柔道牽ること也

○九二包に魚有ば咎无し賓に不利ろし

○象に曰く包有魚は義不及賓ること也

○九三臀无膚其行次且厲ければ大に无咎

○象に曰く其行次且は行未だ牽ざるなり

○九四包无魚起凶

○象に曰く无魚之凶は遠民ること也

○九五杞に包瓜含章あり有隕自天

○象に曰く九五の含章は中正ること以て通ること理ること也有隕自天は志不舍命ること也

○上九姤其角吝咎无し

○象に曰く姤其角は上窮吝ること也

萃

萃は亨る王假有廟大人を見る亨る利ろし貞し大牲を用ひ吉利ろし有攸往ことあれば

○彖に曰く萃は聚なり順にして以て說ぶ剛中にして而して應ず是を以て聚ると也王假有廟とは致孝享ること也大人を見る亨る利ろし貞しとは聚て以て正ること也大牲を用ひ吉利ろし有攸往ことあればとは順天命ること也觀其聚る所を而して天地萬物の情見る

○象に曰く澤地上に在るは萃なり君子以て戎器を除め不虞を戒む

○初六有孚あれども不終ず乃ち亂乃ち萃ふ一握爲笑ふ勿恤往ば无咎

○象に曰く乃亂乃萃は其志亂ること也

○六二引ば吉咎无し孚乃ち利用て禴ること有

○象に曰く引吉は不變ること在ること中也

○六三萃ふに嗟如ること无攸利往ば无咎小しく吝

○象に曰く往无咎は上巽ること也

○九四大吉咎无し

○象に曰く大吉无咎は位不當ること也

○九五萃ふに位无咎匪孚あれば元永貞悔亡

○象に曰く萃有位は志未だ光ならざるなり

○上六齎咨涕洟咎无し

○象に曰く齎咨涕洟は未だ安上ること也

升

升は元亨る用て大人を見る勿恤南征吉

○彖に曰く柔時に升て而して巽ふ剛中にして而して應ず是を以て大に亨ると也用て大人を見る勿恤とは有慶ること也南征吉は志行ること也

○象に曰く地中に木生るは升なり君子以て順德を積て高大を成す

○初六允に升吉大に吉

○象に曰く允升大吉は上合志ること也

○九二孚あれば乃ち利用て禴ること有咎无し

○象に曰く九二の孚は有喜ること也

○九三虛邑に升

○象に曰く升虛邑は无所疑ること也

○六四王用て岐山に亨ること吉咎无し

○象に曰く王用亨于岐山は順事ること也

○六五貞吉階を升

○象に曰く貞吉升階は大得志ること也

○上六冥升利ろし不息貞し

○象に曰く冥升在上は消不富ること也

困

困は亨る貞し大人吉咎无し有言あれども信ぜられず

○彖に曰く困は剛掩ること也險以て說ぶ困て而して其道を不失ず亨る其唯君子乎貞し大人吉とは以て剛中ること也有言あれども信ぜられずとは尚口乃ち窮ること也

○象に曰く澤水に无きは困なり君子以て命を致して志を遂ぐ

○初六臀困株木に入于幽谷三歲まで覿ず

○象に曰く入于幽谷は幽不明ること也

○九二困て酒食に朱紱方に來ること有利用て享祀ること征凶咎无し

○象に曰く困于酒食は中有慶ること也

○六三困て于石に據て于蒺藜に入于其宮に不見其妻を凶

○象に曰く據于蒺藜は乘剛ること也入于其宮は不見其妻は不祥ること也

○九四來ること徐徐として困て于金車に吝あり有終ること

○象に曰く來徐徐は志在下ること也雖不當ども有與ること也

○九五劓かれ且刖かれ困て于赤紱に乃ち徐に有說ぶこと利用て祭祀ること

○象に曰く劓刖は志未だ得ざるなり乃徐有說は以て中直ること也利用祭祀は受福ること也

○上六困て于葛藟に于臲卼に困て曰に動悔あり有ば悔ること征吉

○象に曰く困于葛藟は未だ當ざるなり動悔有悔は吉行ること也

井

井は邑を改て井を不改ず无ければ喪无ければ得往來井井

○彖に曰く巽て乎水而して上水を井ふ井は養て而して窮ず也邑を改て井を不改ずとは乃ち以て剛中ること也汔に至て亦未だ繘井に繘ず羸其瓶凶とは是を以て功ること也

○象に曰く木水上に有るは井なり君子以て民を勞て而して勸ること相ること之を

○初六井泥ること不食舊井禽无し

○象に曰く井泥不食は下ること也

○九二井谷射鮒甕敝て漏る

○象に曰く井谷射鮒は无與ること也

○九三井渫て不食我が心惻む可用て汲ること王明並受其福

○象に曰く井渫不食は行惻ること也求ること可用汲は王明ること也並受其福は承天寵ること也

○六四井甃修ること无咎

○象に曰く井甃无咎は修井ること也

○九五井冽寒泉食ること有

○象に曰く寒泉之食は中正ること以て也

○上六井收ること勿幕ること有孚あれば元吉

○象に曰く元吉在上は大成ること也

革

革は巳日にして乃ち孚あり元亨る利ろし貞し悔亡

○彖に曰く革は水火相息ふ二女同居して而して其志相得ず曰革と也巳日にして乃ち孚ありとは革て而して信ずる也文明にして以て說ぶ大に亨て以て正なり革て而して當る其悔亡と也天地革て而して四時成る湯武革命して而して順乎天にして而して應乎人革の時の大なる哉

○象に曰く澤中に火有るは革なり君子以て時を治暦明かにす

○初九鞏に用ひ黃牛之革

○象に曰く鞏用黃牛は不可以て有爲ること也

○六二巳日にして乃ち革ること之を征吉咎无し

○象に曰く巳日革之は行有嘉ること也

○九三征凶貞厲革言三たび就て有孚あり

○象に曰く革言三就は又何之ん

○九四悔亡孚あれば改命ること吉

○象に曰く改命之吉は信志ること也

○九五大人虎變ること未だ占ず有孚あり

○象に曰く大人虎變は其文炳ること也

○上六君子豹變ること小人は面革ること征凶居貞吉

○象に曰く君子豹變は其文蔚ること也小人革面は順以て從ること也

鼎

鼎は元吉亨る

○彖に曰く鼎は象ること也以木巽火亨飪ること也聖人大に亨て以て上帝を享ること而して大に亨て以て聖賢を養ふ巽て而して耳目聰明柔進て而して上行ず得中而して應乎剛ること是を以て元吉亨ると也

○象に曰く木火を巽ふるは鼎なり君子以て位を正して命を凝す

○初六鼎趾顚ること利ろし出否を得妾を以て其子に得ること无咎

○象に曰く鼎顚趾は未だ悖ざるなり利出否は以て從ること貴ること也

○九二鼎實有ること我が仇疾有ること我に不能我に即ず吉

○象に曰く鼎有實は愼所之ること也

○九三鼎耳革ること其行塞ること雉膏食ること不ず方雨虧ること悔あり終吉

○象に曰く鼎耳革は失其義ること也

○九四鼎折ること足覆ること公の餗を其形渥凶

○象に曰く覆公餗は信如何ぞ也

○六五鼎黃耳金鉉貞利ろし

○象に曰く鼎黃耳は中以て爲ること實ること也

○上九鼎玉鉉大吉无不利

○象に曰く玉鉉在上は剛柔節ること也

震

震は亨る震來虩虩として笑言啞啞として百里を震驚して匕鬯を喪ず

○彖に曰く震は亨るとは震來虩虩として恐懼修ること致福ること也笑言啞啞として後則ること有ること也震百里を驚すとは遠を驚して而して懼ること也匕鬯を喪ずとは以て守宗廟社稷ること可ること以て祭主ること也

○象に曰く洊雷震るは君子以て恐懼して修省す

○初九震來虩虩として後に笑言啞啞として吉

○象に曰く震來虩虩は恐致福ること也笑言啞啞は後有則ること也

○六二震來厲億喪貝九陵に躋る勿逐七日にして得

○象に曰く震來厲は乘剛ること也

○六三震蘇蘇として震ること行ば无眚あり

○象に曰く震蘇蘇は位不當ること也

○九四震遂泥

○象に曰く震遂泥は未だ光ならざるなり

○六五震往來厲億无喪有事あり

○象に曰く震往來厲は危行ること也其事在中ること大无喪ること也

○上六震索索として視矍矍として征凶震其躬に不于其鄰に无咎婚媾言あり

○象に曰く震索索は中未だ得ざるなり雖凶无咎は畏鄰戒ること也

艮

艮は其背を艮て其身を不獲ず其庭を行て不見ず其人を无咎

○彖に曰く艮は止なり時に止れば則ち止時に行れば則ち行動靜不失ること其時を其道光明ること也艮て其止ること其所を止ること其所ならざるなり是を以て其身を不獲ず其庭を行て不見ず其人を无咎と也

○象に曰く兼山艮なるは君子以て思ふこと不出ず其位を

○初六趾を艮て咎无し永貞利ろし

○象に曰く艮其趾は未だ失ざるなり正ること也

○六二腓を艮て不拯ず其隨ふ所を不快ず其心を

○象に曰く不拯其隨は未だ退聽ざるなり

○九三限を艮て其夤を列ぬ厲薰心

○象に曰く艮其限は危ること薰心ること也

○六四身を艮て咎无し

○象に曰く艮其身は止諸躬ること也

○六五輔を艮て言に有序あり悔亡

○象に曰く以中正ること也

○上九敦艮吉

○象に曰く敦艮之吉は以て厚終ること也

漸

漸は女歸ぐこと吉利ろし貞し

○彖に曰く漸は之進ること也女歸ぐこと吉ありとは進て得ること位ること往ること有ること功也進ること以て正ること可ること以て正邦ること也其位剛ること得中ること也止て而して巽ふ動て而して不窮ること也

○象に曰く山上に木有るは漸なり君子以て賢德に居て善俗す

○初六鴻漸ること于干に小子は厲あり言あり咎无し

○象に曰く小子之厲は義无咎ること也

○六二鴻漸ること于磐に飲食衎衎として吉

○象に曰く飲食衎衎は不素飽ること也

○九三鴻漸ること于陸に夫征て不復ず婦孕て不育ず凶利ろし禦寇

○象に曰く夫征不復は離羣醜ること也婦孕不育は失其道ること也利禦寇は順相保ること也

○六四鴻漸ること于木に或桷を得ば无咎

○象に曰く或得桷は順以て巽ること也

○九五鴻漸ること于陵に婦三歲まで孕ず不育ず終に之を勝ること莫ければ吉

○象に曰く終莫之勝吉は得所願ること也

○上九鴻漸ること于陸に其羽儀ること可用て吉

○象に曰く其羽可用吉は不可亂ること也

歸妹

歸妹は征凶利ろし有攸往ことなし

○彖に曰く歸妹は天地の大義なり天地不交して而して萬物興らず歸妹は人の終始なり說て以て動く所歸ること妹ること也征凶位當ること不ること也利ろし有攸往ことなしとは終れば則ち有ること弊ること也

○象に曰く澤上雷有るは歸妹なり君子以て永終を知て敝を知る

○初九歸妹ること以て娣ること跛能履ること征吉

○象に曰く以娣ること以て恒ること也跛能履吉は相承ること也

○九二眇能視ること利ろし幽人の貞

○象に曰く幽人之貞は未だ變ざるなり

○六三歸妹ること以て須ること反て以て娣ること

○象に曰く歸妹以須は未だ當ざるなり

○九四歸妹ること愆期ること遲歸ること有時あり

○象に曰く愆期之志は有待ること而行ること也

○六五帝乙妹を歸ぐ其君の袂良ること其娣の袂良ること如ざるが如し月幾望に吉

○象に曰く其君之袂良は中以て行ること願ること也

○上六女承ること筐に无實士刲ること羊に无血利ろし攸往ことなし

○象に曰く上六无實は虛承ること筐ること也

豐

豐は亨る王假ること之を勿憂ること宜日中に

○彖に曰く豐は大なり明以て動く故に豐なり王假ること之とは尚大ること也勿憂ること宜日中にとは宜照ること天下ること也日中すれば則ち昃ること月盈つれば則ち食ること天地盈虛與時消息ること而るを況人乎況鬼神乎

○象に曰く雷電皆至るは豐なり君子以て獄を折て刑を致す

○初九其配主に雖旬ども咎无し往ば尚ること有

○象に曰く雖旬无咎は過旬災ること也

○六二豐其蔀に日中に見斗を往ば疑ること得ること疾あり有孚あれば發若ること吉

○象に曰く有孚發若は信以發志ること也

○九三豐其沛に日中に見沫を折て其右肱を用ひ无咎

○象に曰く豐其沛は不可大事ること也折其右肱は終に不可用ること也

○九四豐其蔀に日中に見斗を遇其夷主に吉

○象に曰く豐其蔀は位不當ること也日中見斗は幽不明ること也遇其夷主は行吉ること也

○六五來章あり有慶譽あり吉

○象に曰く六五之吉は有慶ること也

○上六其屋を豐にして其家を蔀にす其戸を闚て其无人を闃として三歲まで不覿ず凶

○象に曰く豐其屋は天際翔ること也闚其戸闃其无人は自藏ること也

旅

旅は小しく亨る旅貞吉

○彖に曰く旅は小しく亨るとは柔得中乎外而して順乎剛ること止て而して麗乎明ること是を以て小しく亨る旅貞吉なりと也旅の時の義大なる哉

○象に曰く山上に火有るは旅なり君子以て明愼して刑を用て而して留獄を不折

○初六旅瑣瑣として斯に其所取災ること

○象に曰く旅瑣瑣は志窮災ること也

○六二旅即次ること懷其資を得童僕貞

○象に曰く得童僕貞は終に无尤ること也

○九三旅焚其次を喪其童僕貞厲

○象に曰く旅焚其次は亦以傷ること矣ること以旅與下ること其義喪ること也

○九四旅于處ること得其資斧を我が心不快

○象に曰く旅于處は未だ得位ざるなり得其資斧は心未だ快ざるなり

○六五一矢を亡ひ一矢を終に以て譽命ること有

○象に曰く終以譽命は上逮ること也

○上九鳥其巢を焚ること旅人先には笑ひ後には號咷す喪牛于易凶

○象に曰く以旅在上は其義焚ること也喪牛于易は終に莫聞ること也

巽

巽は小しく亨る利ろし有攸往ことあれば利ろし見大人を

○彖に曰く重巽以て命を申ること剛巽乎中正にして而して志行ること柔皆順乎剛ること是を以て小しく亨る利ろし有攸往ことあれば利ろし見大人を

○象に曰く隨風巽なるは君子以て命を申て事を行ふ

○初六進退ること利ろし武人の貞

○象に曰く進退は志疑ること也利武人之貞は志治ること也

○九二巽て牀下に用ひ史巫紛若ること吉咎无し

○象に曰く紛若之吉は得中ること也

○九三頻巽ること吝あり

○象に曰く頻巽之吝は志窮ること也

○六四悔亡田獲ること三品あり

○象に曰く田獲三品は有功ること也

○九五貞吉悔亡无不利无初有終先には庚三日後には庚三日吉

○象に曰く九五之吉は位正中ること也

○上九巽て牀下に喪其資斧を貞凶

○象に曰く巽在牀下は上窮ること也喪其資斧は正乎凶ること也

兌

兌は亨る利ろし貞し

○彖に曰く兌は說ぶなり剛中にして而して柔

坤下艮上

剝不往攸有利不

初六林と剝するに足と蔑と貞と凶と

六二之と剝するに辨と蔑と貞と凶と

六三林と剝するに膚と凶と

六四林と剝するよ膚と以するも凶と

六五魚と貫ぬるに宮人の寵とするを剝るるに不利と

上九碩果食せらるるに君子は輿を得小人は廬を剝る

剝。不利有攸往

坤下艮上　卦象陰爻さんこう下より上へ五つ重なりて陽氣ようきを一つ上に殘して盧舍ろしゃの象なり　卦の象は陰爻さんこう五つ下より上へ重なりて陽氣ようきを一つ上に殘して盧舍ろしゃの象なり　卦の象は陰爻さんこう五つ下より上へ重なりて陽氣ようきを一つ上に殘して盧舍ろしゃの象なり

剝。不利有攸往　卦象陰爻さんこう五つ下より上へ重なりて陽氣ようきを一つ上に殘して盧舍ろしゃの象なり　卦の象は陰爻さんこう五つ下より上へ重なりて陽氣ようきを一つ上に殘して盧舍ろしゃの象なり　卦の象は陰爻さんこう五つ下より上へ重なりて陽氣ようきを一つ上に殘して盧舍ろしゃの象なり

初六。剝牀以足。蔑貞凶。

初六林と剝するに足と蔑と貞と凶と

六二。剝牀以辨。蔑貞凶。

六二林と剝するに辨と蔑と貞と凶と

六三。剝之。无咎。

六三この爻變ずれば艮ごんの下卦かけ坤こんと變ずるなり　上九の碩賢と應ずるなり　六三この爻變ずれば艮ごんの下卦かけ坤こんと變ずるなり　上九の碩賢と應ずるなり　六三この爻變ずれば艮ごんの下卦かけ坤こんと變ずるなり　上九の碩賢と應ずるなり

六四。剝牀以膚。凶。

六四林と剝するに膚と凶と

六五。貫魚。以宮人寵。无不利。

六五魚と貫ぬるに宮人の寵とするを剝るるに不利と

上九。碩果不食。君子得輿。小人剝廬。

上九碩果食せらるるに君子は輿を得小人は廬を剝る

れ不君子は輿と得ん小人は廬と剝を

震下 坤上

復は亨る出入疾なし朋来れば无咎反復其道七日来復往く所有るを利す

剝廬

碩果る果と梨子のたぐひ之上九は高き処なり外卦と為る初六より六五まで剝せらるゝこと皆も上九は如下の五陰の小人なる君子の徳とる故に君子は輿と小人は廬と為る君子の徳あれば人ふてどれん〳〵輿と得うるなり小人不徳なる時は剝せられ〳〵居ざるなり

震下 坤上

復亨出入无疾朋来无咎反復其道七日来復利有攸往

陽内卦の初より生じ衆陰なる之ふきさり陰なる帰服するを以て出入とも心ふ疾なし次第ふ陽気長ずるを以て朋類きたるなり

とて咎もなくその道をとおりてきたりその道をとおりて七日にして反復ると陽初ふ復ると一説ふ初て陽内ふ生じ陽外卦とるを以て出るとなり

初九不遠復无祇悔元吉

剝の上九より坤の初六陰氷の戒心あり遠とは早く復この由えふ悔ふ祇とふし又祇ふとゝゝて遠ざかるなり

六二休復吉

内ふ己れが私欲を克と訓て克己と復礼をうるも又仁と為るの基なり

休は人ふ臨るの徳有ると訓て克己と復礼をうるも又仁と為るの基なり

六三頻復厲无咎

頻ふ復る厲ふ咎无し

闚口ふ詘身の動まで非礼のうれひなきまで見るべしとの義とふし此ふ中正ふして其志ざし初陽ふ反復るの意とて三ふ居てその位正しくして定まりなくこの爻変じて明夷のうごきとなりなり又二三四

六四中行独復

六五復不敦一悔无一

上六迷復凶災青有用師ト行終ニ大敗有其國君ヲ以テ凶十年ニ至ルマデ不克征

○六五。敦復。无悔

中正ヲ以テ坤順ノ徳ヲ以テ君位ニ居ル實ニ祉ヲ復ル者ニ應ズルヲ以テ座位元ヨリ正シク上下ノ四陰ノ柔弱ニ獨リ祉ヲ復ルヲ敦クシテ礼ヲ復ス敦クナルヲ云フ

○六四。中行独復

五陰ノ中ヨリ離ノ明知ヲ以テ初爻ノ賢者ニ應ズルヲ云フ

○上六。迷復。凶。有災眚。

上六陰柔ヲ以テ上ニアリ其ノ位正シカラズ又変ト良トニ復ル

用行師終有大敗。以其國君凶。至于十年不克征

時ニ當テ憎悪ヲ起シ兵ヲ動シ滞ル時ハ大ニ敗軍トナル

梁ノ惠王ノ遂ニ以テ師ヲ行ク大子申ヲ殺シ

震下　乾上

无妄。元亨利貞。其匪正有眚。不利有攸往。

无妄ハ元ヲ享ル貞ヲ以テ利トス其匪正ヲ眚ヒ有攸往ニ不利アリ

初九无妄ニシテ往ケバ吉ナリ

六二耕穫セ不菑畬セ不バ則チ

震下　乾上

无妄。元亨利貞。其匪正有眚。不利有攸往。

无妄ハ元ヲ享ル貞ヲ以テ利トス其匪正ヲ眚ヒ有攸往ニ不利アリ

初九。无妄往吉。

初九ハ下ニ正シクシテ時ニ當テ吉利アルコト

二不耕穫。不菑畬。則利有攸往。

徙攸有ㇾ利
六三无妄之災或繫之牛行人之得ㇾ邑人之災
九四可貞无咎
九五无妄之疾

蓄ㇾ而不ㇾ正无妄の君ㇾ災ㇾ行ㇾ人ㇾ之ㇾ牛ㇾ邑ㇾ人ㇾ災ㇾ
之ㇾ災 この父の喪、同人の三爻、今陰爻の時ㇾ居位ㇾ震の三爻ㇾ震動も
のゝ无妄ㇾ妄ㇾ之ㇾ時ㇾ妄想の心ㇾ生ㇾ災ㇾ
くること无ㇾ妄ㇾ之ㇾ災ㇾ同人三爻の心ㇾ也ㇾ繫ㇾ牛ㇾ
時ㇾ行人のひそかに去ㇾ邑人とかの牛ㇾ
てゝ无妄の心ㇾ
負べくんば咎なし

○六三。无妄之災或繫之牛。行人之得邑人
之災。

○九四。可貞无咎

○九五。无妄之疾勿藥

勿ㇾ藥ㇾ喜ㇾ有ㇾ

上九。无妄行ㇾ有ㇾ眚无攸利

乾下艮上

大畜利貞不家食吉利涉大川

大畜貞ㇾ利ㇾ
家食ㇾ不ㇾ吉ㇾ
大川ㇾ涉ㇾ利ㇾ

經典釋文　卷之二　四十

有喜 中正无妄の君ㇾ災ㇾ
ㇾ行ㇾ日ㇾ月ㇾ
ㇾ少ㇾ心ㇾ疾ㇾ
得て喜心

○上九。无妄行有眚无攸利

䷙ 乾下艮上

ハ行所ㇾ
まれて行ㇾ
ハ乾進で升ㇾ艮止まるの外ふ
用ㇾ
て來ㇾ
又牛ㇾ
ㇾ
ㇾ

初九厲ㇾ有ㇾ已ㇾ利ㇾ
九二輿ㇾ輹ㇾ說
九三良馬逐艱貞ㇾ利ㇾ曰ㇾ閑ㇾ輿衛ㇾ利ㇾ有ㇾ攸往ㇾ
六四童牛之牿元ㇾ吉ㇾ
六五豶豕之牙ㇾ吉ㇾ
上九天之衢ㇾ亨ㇾ
震下艮上

大畜

初九有厲。利已

カ微少ㇾ雖ㇾ上ㇾ應有ㇾ以ㇾ
上ㇾ不應ㇾ有ㇾ以ㇾ
ㇾ進ㇾ時ㇾ之主ㇾ故ㇾ下ㇾ厲危ㇾ有又之ㇾ爻ㇾ下ㇾ巽順ㇾ
ㇾ意ㇾ有ㇾ以ㇾ止ㇾ之ㇾ故ㇾ已ㇾ
ㇾ已ㇾ利ㇾ
ㇾ厲ㇾ危ㇾ
ㇾ已ㇾ止ㇾ
ㇾ利ㇾ
ㇾ身ㇾ之ㇾ
ㇾ災ㇾ
ㇾ也ㇾ

九二輿輹。說

輹正應ㇾ五君ㇾ而ㇾ往ㇾ
止ㇾ
ㇾ之ㇾ車ㇾ
ㇾ軸ㇾ
ㇾ縛ㇾ
ㇾ而ㇾ
ㇾ不ㇾ
ㇾ行ㇾ
ㇾ也ㇾ

九三良馬逐。艱貞。利。曰閑輿衛。利有攸往

乾ㇾ之ㇾ良馬ㇾ
上九ㇾ兩陽ㇾ
ㇾ相ㇾ應ㇾ
ㇾ良馬ㇾ
ㇾ乘ㇾ
ㇾ而ㇾ
ㇾ馳ㇾ
ㇾ逐ㇾ
ㇾ艱ㇾ
ㇾ難ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ象ㇾ
ㇾ也ㇾ
ㇾ貞ㇾ
ㇾ正ㇾ
ㇾ以ㇾ
ㇾ守ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ以ㇾ
ㇾ待ㇾ
ㇾ時ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ例ㇾ
ㇾ輿ㇾ
ㇾ車ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ軸ㇾ
ㇾ縛ㇾ
ㇾ也ㇾ
ㇾ閑ㇾ
ㇾ習ㇾ
ㇾ也ㇾ
ㇾ衛ㇾ
ㇾ護ㇾ
ㇾ也ㇾ
ㇾ利ㇾ
ㇾ有ㇾ
ㇾ攸ㇾ
ㇾ往ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ時ㇾ
ㇾ也ㇾ

六四童牛之牿。元吉

四ㇾ初ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ童牛ㇾ
ㇾ牿ㇾ
ㇾ牛ㇾ
ㇾ馬ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ角ㇾ
ㇾ橫ㇾ
ㇾ木ㇾ
ㇾ以ㇾ
ㇾ制ㇾ
ㇾ其ㇾ
ㇾ觸ㇾ
ㇾ也ㇾ
ㇾ牛ㇾ
ㇾ馬ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ性ㇾ
ㇾ觸ㇾ
ㇾ人ㇾ
ㇾ而ㇾ
ㇾ人ㇾ
ㇾ以ㇾ
ㇾ木ㇾ
ㇾ橫ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ於ㇾ
ㇾ角ㇾ
ㇾ上ㇾ
ㇾ使ㇾ
ㇾ不ㇾ
ㇾ得ㇾ
ㇾ觸ㇾ
ㇾ人ㇾ
ㇾ也ㇾ
ㇾ元ㇾ
ㇾ吉ㇾ
ㇾ大ㇾ
ㇾ吉ㇾ
ㇾ也ㇾ

六五豶豕之牙。吉

豶ㇾ去ㇾ勢ㇾ之ㇾ豕ㇾ
馬ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ牙ㇾ
ㇾ上ㇾ
ㇾ下ㇾ
ㇾ相ㇾ
ㇾ交ㇾ
ㇾ而ㇾ
ㇾ能ㇾ
ㇾ傷ㇾ
ㇾ人ㇾ
ㇾ豕ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ牙ㇾ
ㇾ不ㇾ
ㇾ能ㇾ
ㇾ傷ㇾ
ㇾ人ㇾ
ㇾ而ㇾ
ㇾ人ㇾ
ㇾ以ㇾ
ㇾ木ㇾ
ㇾ橫ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ於ㇾ
ㇾ口ㇾ
ㇾ中ㇾ
ㇾ使ㇾ
ㇾ不ㇾ
ㇾ得ㇾ
ㇾ噬ㇾ
ㇾ人ㇾ
ㇾ也ㇾ
ㇾ吉ㇾ
ㇾ大ㇾ
ㇾ吉ㇾ
ㇾ也ㇾ

上九何天之衢。亨

何ㇾ支ㇾ
ㇾ最ㇾ初ㇾ微ㇾ小ㇾ
ㇾ制ㇾ裁ㇾ
ㇾ童牛ㇾ
ㇾ牿ㇾ
ㇾ牛ㇾ
ㇾ馬ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ角ㇾ
ㇾ橫ㇾ
ㇾ木ㇾ
ㇾ以ㇾ
ㇾ防ㇾ
ㇾ其ㇾ
ㇾ觸ㇾ
ㇾ人ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ豕ㇾ
ㇾ牙ㇾ
ㇾ上ㇾ
ㇾ下ㇾ
ㇾ相ㇾ
ㇾ交ㇾ
ㇾ而ㇾ
ㇾ能ㇾ
ㇾ傷ㇾ
ㇾ人ㇾ
ㇾ豕ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ牙ㇾ
ㇾ不ㇾ
ㇾ能ㇾ
ㇾ傷ㇾ
ㇾ人ㇾ
ㇾ而ㇾ
ㇾ人ㇾ
ㇾ以ㇾ
ㇾ木ㇾ
ㇾ橫ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ於ㇾ
ㇾ口ㇾ
ㇾ中ㇾ
ㇾ使ㇾ
ㇾ不ㇾ
ㇾ得ㇾ
ㇾ噬ㇾ
ㇾ人ㇾ
ㇾ也ㇾ
ㇾ天ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ衢ㇾ
ㇾ雲路ㇾ
ㇾ鳥ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ飛ㇾ
ㇾ翔ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ路ㇾ
ㇾ也ㇾ
ㇾ何ㇾ
ㇾ物ㇾ
ㇾ礙ㇾ
ㇾ之ㇾ
ㇾ而ㇾ
ㇾ不ㇾ
ㇾ通ㇾ
ㇾ亨ㇾ
ㇾ也ㇾ

震下艮上

頤貞吉觀頤自求口實

初九再の靈龜を舍て我を觀て頤ひ朶ひ凶

六二頤ひに顚す

堅く實一中間ハ陰爻ゆゑて内象ハ空虛ゆゑ口頤の象と八卦の名とハ又口中の實とを食物のごとくそれゆゑ生と艮一ゆゑ形と艮一ゆゑの德と艮一ゆゑ人とや艮一ゆゑ地の萬物とや艮一ゆゑ言と身の行狀と實とゆゑて虛言ゆゑぬとて又口ふさいで實ゆゑて口實と求受人とゆゑ○初九舍爾

靈龜觀我朶頤凶

靈妙なる龜ゆゑて天性清白なる人ふたゝび今その靈龜のごとくなる守節と舍て我とやゆゑ君と觀て口頤と朶ひ食祿とめして食祿ともしさゝゆゑ時ハ凶ゆゑ

○六二顚頤拂經于丘頤征凶

二ハ吾應るきめへ初と

經ふ拂る丘ふ于て頤ふ征ハ凶ニ

六三頤ふ拂ハ貞凶ゆゑ十年用ゆること勿利ことる攸なし

六四顚ぐゐと顚す吉ニ虎視眈々其欲逐々咎无し

比して頤養上ふさゝへて初ふつさとも顚倒ことも又中ゆゑひの道ハ下の上ふ求るハ常經ニ今下の初ふ求るが迪ふ顚倒ことゝ艮ことゝ良の象ゆゑて上九とつやゆゑひて險柔ゆゑて与

六五經于拂貝于朋或益之十朋之龜弗克違永貞吉王用享于帝吉

居賢吉利大川渉可不

上九由頤厲吉利渉大川

居賢由頤吉利渉大川

大過棟橈

巽下兌上

大過棟橈

徙攸有攸往利

初六藉用白茅无咎

重巽以申命剛巽乎中正而志行柔皆順乎剛是以小亨利有攸往

兌說以利貞是以順乎天而應乎人說以先民民忘其勞說以犯難民忘其死說之大民勸矣哉

○六五拂經于拂貝于朋或益之十朋之龜弗克違永貞吉

拂貝于朋或益之十朋之龜弗克違永貞吉

拂貝于朋或益之十朋之龜弗克違永貞吉

九三棟の撓む凶
あり

九四棟隆る吉
う它有べからず吝

九五枯楊華を
生ず老婦其士
夫を得り咎
无く譽も无し

枯楊凶　九三の中と過て下の上ふり剛を過し上六柔應
なのごとく凶なるいえり　○九四棟隆吉
大過る時剛賢の材をえ柔の位の身を
落着とるそうくその任うるまのごとく
吉うりえ木と収く棟引うけるがごとく心満假て他
の初六陰柔よりて下民のきて上てくるごとく多の小
木と収く棟引うけるがごとく心満假て他
の初六陰柔よりて下民のきて上てくるごとく多の小
なのごとく凶なるいえり　○九四棟隆吉
大過る時剛賢の材をえ柔の位の身を
落着とるそうくその任うるまのごとく
吉うりえ木と収く棟引うけるがごとく心満假て他
の初六陰柔よりて下民のきて上てくるごとく多の小
大過の時ふ當て敷位うれども下ふ應与うけをべからず
枯る楊ふ花と生じたるがごとく遂ふ盛ふし又よろ

上六過て渉る頂
まで滅もふり
咎无し

坎下坎上

習坎孚有維心
亨行べ尚
有

老る婦人の壮士夫と得るがごとくそも勁育の功ふ
うりて罪咎有ともうれども又美ようてそうりて
なしとう　○上六過渉滅頂凶无咎　陰爻を
の地ふ居ふ小人の身ふて敗限ふ過るたとへば水ふ滅しがごとく
ふりえ又く頂迫ふ水ふ滅しがごとく　隶今過
るこれ時ハ苦ふ堪ることのとこ
うぶ自のうえ所うて他と咎ろことあべとなり

坎下坎上　坎ハ險難る地とれ一陽二陰の中ふ落
入うり今坎と重るこれ險難の中
ふ又險難うて坎ふ水うり水ふ水と増うるとて
止ざるふ學問ふたとえるこれを勉て止ざるとえて坎難その
中ふ通るよいてるこれかれふる時ハ字信と
孚有維心亨行有尚　人ふる坎難
歴る身ふ維ふるの亨ざることう誠ふ守て行て
止ざるとべ功徳と尚加るふくのごとれ行ふ支そこた貴尚べ

初六習坎坎窞入于坎窞凶

九二坎有險求小得

六三来之坎々乘且枕入于坎窞勿用

六四樽酒簋貳用缶納約自牖

〇初六習坎入于坎窞凶　この爻変じまば水澤節の象にうり初六陰柔の性質うるゆへ惰弱みて不正の地に落入て坎窞ふとじまうるゆへ凶と免説く険難みうるうえ

〇九二坎有険求小得　この爻変じて坤順となり順従所あれば小き求得べしとなり

〇六三来之坎々乘且枕入于坎窞勿用　陰よりて三ふれ不正二上卦も下卦も険坎うるゆへ険といえどもまた坎中へ陥ちいるうえ来も坎中へ陥ちいるうえ坎々とくの坎の窞へ入るうえ坎の上下のうごきふたつて上卦とうごくようるゆへ

〇六四樽酒簋貳用缶納約自牖

貳ふ缶とて用也約とて納とて牖自す終ふ処なし

九五坎盈不既ふ祇既平うるふ祇既なし

上六係ふ徽纆とて用とて叢棘于寘三歳得不凶うり

終无咎　上容の宴饗食の具うり樽ふ酒うり簋ふ食うり缶ふ器うり約ふ結うり牖ふ窓うり

ふたつて樽の酒つくうる時ふ缶の器ふてびくの酒あり樽の側ふ君ふたとふ缶ふ臣の君とくうる時ふ缶の酒つくうる時ふ缶の器ふてびくの酒あり樽の側ふ君ふたとふ缶ふ臣の君とくうる時ふ缶の酒つくうり樽

なり○大臣の罪は三歳にして赦さるゝに例せり○罪禍ありても久きを舎れ出ざるうつめふ出ると得不ざるを以てなり

離下離上

離 負且乘 致寇至 貞吝

離ハ負ふ利ありと享ル牝牛を畜なふ吉ありと

初九履レ錯然敬レ之无咎

初九ハ履レ錯然トシテ敬レ之ヲ无咎ト

離。利貞亨。畜牝牛吉

離ハ萬物形ニ麗ヒ附ク所ニ而生ル者ナリ○柔ハ順ヒ而ニ麗ヒ附ク所ニ而生ル者ナリ○二人ノ交情ハ主ニ離ルヽ事ニシテ柔ハ順ヒ而ニ麗ヒ附ク所ニ而生ル者ナリ○二人ノ交情ハ主ニ離ルヽ事ニシテ

履錯然敬之无咎

この爻下ふるうて離火の性元より上へ炎そゝりのぼる時ハその徳と畜養そだつべき牛の性分のようく生そだつ外ハ牝牛ハなけれバくやまひもなくふるうて内柔和ふるう離の卦の形ありと人をなを明らかにして内柔和ふるう離の卦の形ありと人をなを明らかにして吉ふるう色ありとなり○初九

方正ふつゝしみ時ハ吉ふるう色ありとなり○初九

履錯然

この爻下ふるうて離火の性元より上へ炎そゝりのぼる時ハ凶ふるうの象ありと雖ども中正ふ居て正位と得ふるうの義理ありてその色みだりがましからざるゆへ文明の徳

九四突如其來如焚如死如棄如

六五涕洟出涕沱若戚嗟若

周易餘師卷之一

○九四突如其來如焚如死如棄如

突如とは俗ふいる突出おそろしきうごきなり來如とは來ること急なるさまなり焚如とは火の炎上するごとく盛なるをいふ死如とは人事の始終之又世代の移革うつり盛衰へて又盛ふるゝ漸〳〵終て又始とるる漸〳〵なれば必ず衰へ始あれば終るこまりごとも衰へて又盛ふるゝ漸〳〵なり棄如とは重一人事の始終之又世代の移革うつり盛衰へて又盛ふるゝ漸〳〵終て又始とるる漸〳〵なれば必ず衰へ始あれば終るこまりごとも衰へて又盛ふるゝ漸〳〵なり

○六五出涕沱若戚嗟若吉

離の卦八あり乾の内外ともに離ふたつ重りて又火と合してさらに盛の二氣を以て下ふ助うるゆゑ四六の剛強中ふたりこれども柔性と